令和３年度　まちづくりセンター活動報告書

浜田市まちづくりセンター合同連絡会

浜田市地域政策部まちづくり社会教育課

目　次

【浜田地域】P1～14

浜田まちづくりセンター　・・・P1～2
石見まちづくりセンター　・・・P3～4
長浜まちづくりセンター　・・・P5～6
周布まちづくりセンター　・・・P7～8
大麻まちづくりセンター　・・・P9～10
美川まちづくりセンター　・・・P11～12
国府まちづくりセンター　・・・P13～14

【金城地域】P15～26

久佐まちづくりセンター　・・・P15～16
今福まちづくりセンター　・・・P17～18
美又まちづくりセンター　・・・P19～20
雲城まちづくりセンター　・・・P21～22
波佐まちづくりセンター　・・・P23～24
小国まちづくりセンター　・・・P25～26

【旭地域】P27～36

今市まちづくりセンター　・・・P27～28
木田まちづくりセンター　・・・P29～30
和田まちづくりセンター　・・・P31～32
都川まちづくりセンター　・・・P33～34
市木まちづくりセンター　・・・P35～36

【弥栄地域】P37～40

安城まちづくりセンター　・・・P37～38
杵東まちづくりセンター　・・・P39～40

【三隅地域】P41～52

岡見まちづくりセンター　・・・P41～42
三保まちづくりセンター　・・・P43～44
白砂まちづくりセンター　・・・P45～46
三隅まちづくりセンター　・・・P47～48
黒沢まちづくりセンター　・・・P49～50
井野まちづくりセンター　・・・P51～52

浜田地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　8,570 人
(2)世 帯 数　4,607 世帯
(3)面　　積　6.64 ㎢
(4)高齢化率　37.34%

主な施設

☑市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☑中学校　☑高等学校　☑専門学校・大学
☐図書館　☑病院　☑スーパー　☑コンビニ
☑ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☑その他（　浜田港　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

①外ノ浦・松原まちづくり推進委員会　令和元年９月 28 日設立（９町内）
②殿町まちづくり委員会　令和元年６月 27 日設立（８町内）
③田町まちづくり推進委員会　平成 28 年６月 10 日設立（７町内）
④えびす新町まちづくり推進委員会　平成 28 年６月 13 日設立（６町内）
⑤片庭連合会　令和３年６月５日設立（６町内）
※未設立町内数　85 町内

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

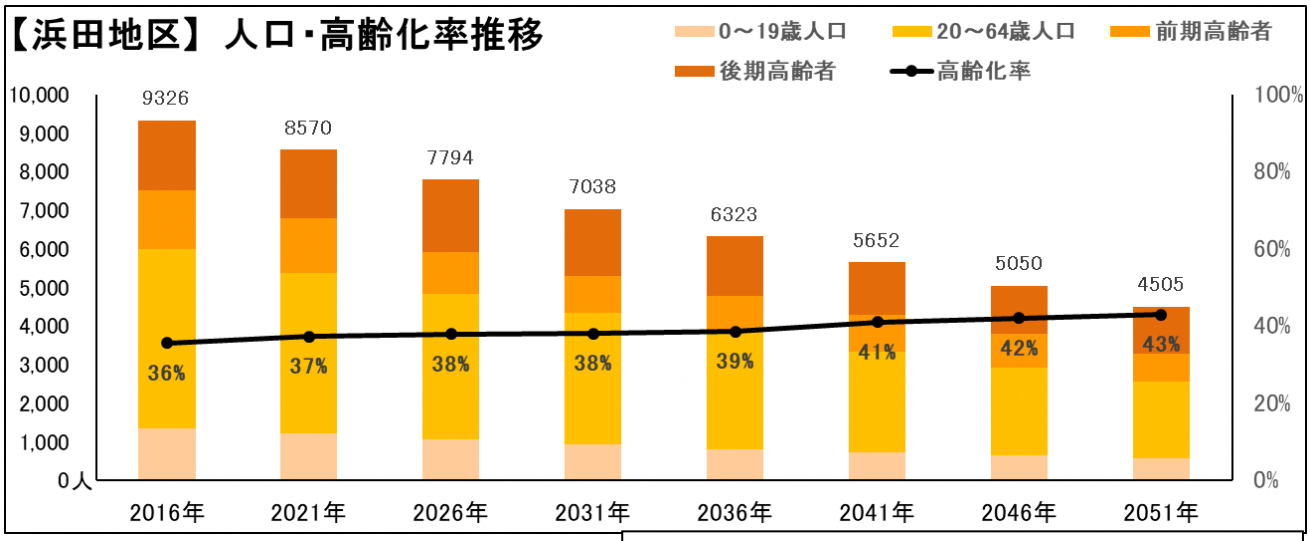
☐事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☑特になし
☐その他（　　）

浜田地区の強み

・地区内に複数の保育所や学校があり、子どもや子育て世代がたくさん生活している。
・市の中心部で、病院やスーパーなどの施設も多く、利便性が高いため人が集まりやすい。
・城下町のため、歴史文化のある施設もあり、地域資源が豊かである。

浜田地区の課題

市内でも人口は多く、施設等も整った地域ではあるが、転勤族や高齢者が多い地区でもある。そうした背景で、住民のまちづくりや防災に対する意識や危機感があまり無く、近所とのつながりも希薄(無関心)な町内が多い。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

浜田まちづくりセンターの新たな取組

事業名

お仕事体験「ハマダニア」

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

〇事業の目的

浜田まちづくりセンターのエリアである浜田地区では“地域の繋がりが希薄な現状”があり、集まりなども減少している。その結果、大人と子どもの繋がりが少ないため核家族化が進んでいるのが課題。そこで、地域にいる素敵な大人たちと子どもたちが出会うことで、“将来の夢”や“楽しそうな大人の姿”を間近で感じ、人と繋がることの楽しさを感じてもらう。

〇見込まれる成果

・自分たちの地域の良さ（資源や人材）を職場体験や交流で体験し、愛着が芽生える。

・職場体験をすることで将来への選択肢が広がり地域で働く人材が増える（思い出・印象に残る）

D 事業の概要

令和３年 11 月 27 日（土）浜田まちづくりセンターで、浜田市内の小学校３・４年生対象に 15 名限定で行った。職場体験の講師として「TS デザイン」「サーファーズキッチン TERA」「浜田消防署」に協力依頼をした。各体験ブース内容は、家の骨組み体験・郷土料理のイカ飯づくり・消防車、救急車、起震車、簡易消火体験。小学生を３グループに分け、すべての体験が出来るよう順番に回した。他校との交流も兼ねていたので“グループ内の学年が被る工夫”や、ボランティアには仲間に入りづらい子どもへの声がけ、目配りなど“子どもたちの楽しい思い出になるように”を意識して活動を依頼した。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							〇		

上記評価の理由

課題に対して結果がすぐに出るものではない。１回きりでなく今後継続して行っていくことで良い成果が見られると思い、期待も込めた自己評価とした。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

協力してくださる事業所を広げ、今回より多いブースを提供。企画に賛同、事業として浸透させることで理解者が増え、長期的に見て町全体の活性に繋げたい。

→そのために、情報収集や日々の関係づくり、継続開催の為の PDCA を確実に行う。

石見地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　12,340 人
(2)世 帯 数　6,296 世帯
(3)面　　積　66.44 ㎢
(4)高齢化率　31.69%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☑中学校　☑高等学校　☑専門学校・大学
☑図書館　☑病院　☑スーパー　☑コンビニ
☑ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☑その他（浜田警察署、石央文化ホール）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

①浜田市長沢町まちづくり推進委員会　平成 23 年５月 21 日設立(18 町内)
②みはし地域まちづくりネットワーク　平成 25 年８月 28 日設立(33 町内)
③後野町まちづくり推進委員会　平成 28 年４月 23 日設立(8 町内)
④佐野・宇津井地区まちづくり推進委員会　平成 25 年５月１日設立(8 町内)
※未設立町内数　31 町内

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

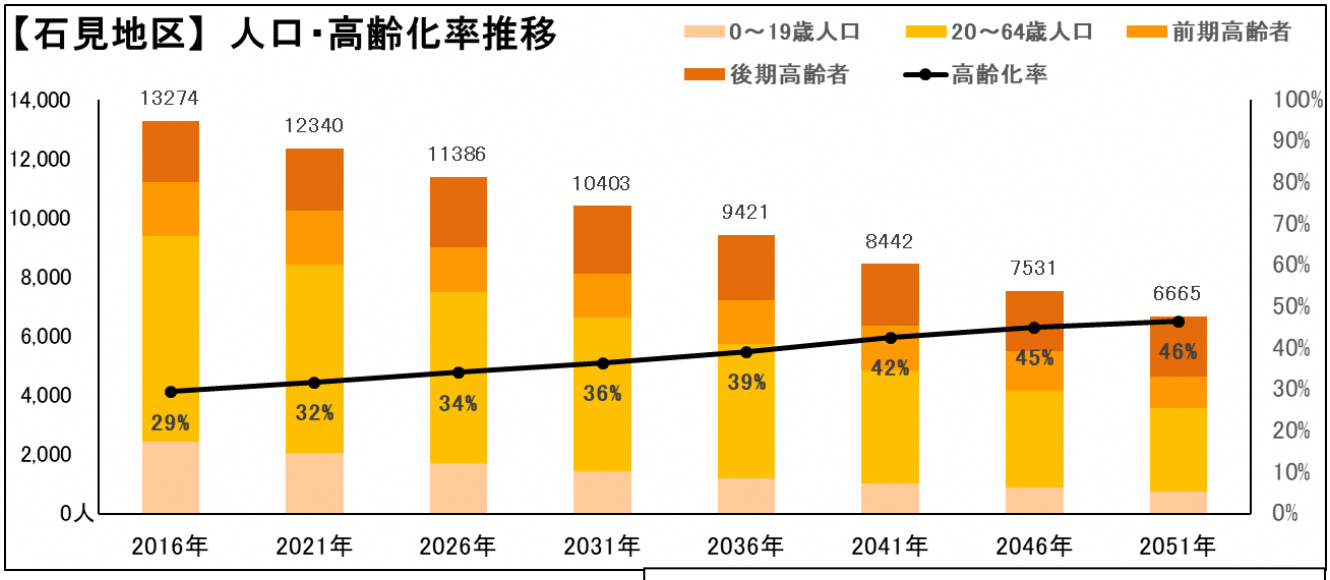
☐事務局機能　☑関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

石見地区の強み

・市の中心部に位置し、利便性が高い。
・公共的な施設が多い。
・県立大学、高校、小学校２校、幼稚園保育園等子どもに関する施設が多く、子どものいる世帯が多い。
・面積が広大であり、中山間地域を含む多様な資源と多彩な人材が多い。
・店舗や病院が近く、生活において便利である。

石見地区の課題

・住民同士の繋がりが希薄である。
・地区まちづくり委員会が立ち上がっていない町内がある。
・中山間地域については、免許証を返納することで、まちづくりセンターに集えなくなる方が増える。
・少子高齢化がさらに進み、地域の活力が失われることが懸念される。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

石見まちづくりセンターの新たな取組

事業名

防災 DAY キャンプ

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

〇親子で防災について学ぶことで、日頃から防災について話し合うことが出来る。

〇親子で地域の自主防災組織の活動に参加したり、地域活動に興味を持ったりするきっかけとなる。

〇センター職員と運営推進委員と一緒に企画運営することで、この地域の課題を共有し解決につながる新たな取組を推進する絆が深まる。

D

事業の概要

〇小学生を含む親子（家族）が対象。「防災」を学ぶことで夏休みの自由研究につながることを想定して計画。センター職員と運営推進委員４名が企画・運営を担う。また、消防本部や防災安全課との連携で学ぶ内容を打合せて実施。実際に学んだ内容は以下の通り。

・パーテーションの組み立て、段ボールベッドや土のうの作り方、非常持ち出し袋の自慢大会

・防災クイズ、ロケットストーブ、かまどでの火起こし、土のう作り、宿泊可能な車の装備自慢

〇災害にちなんだ絵本の読み聞かせを当センターで活躍中の読み聞かせサークル「クローバーの会」より４人の方に依頼した。当日は、絵本や大型紙芝居、パネルシアターなどで災害の恐ろしさなど伝えた。

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							〇		

上記評価の理由

〇事前の打ち合わせをしっかりとしたので、内容は全てスムーズに行えた。夏休みの自由研究として防災を選んだ子どもがいた。

〇企画から事前準備、当日を迎え、充実した取り組みとなり、運営推進委員と絆が深まった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

〇学びの内容が多かった。一つ一つを深く学ぶために内容を精査したい。

〇夏休み中の企画として、日程を考慮する。

〇アンケートより防災食を学びたいとの要望があり、実施に結び付けたい。

長浜地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　5,098 人
(2)世 帯 数　2,540 世帯
(3)面　　積　5.04 ㎢
(4)高齢化率　37.88%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☐中学校　☑高等学校　☐専門学校・大学
☐図書館　☑病院　☐スーパー　☑コンビニ
☑ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☐その他（　長浜港、JR 西浜田駅　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：長浜地区まちづくり推進委員会
設立年月日：平成 23 年４月 17 日
構成団体　：熱田町、長浜町の 28 町内会　ほか
主な活動　：各町内会への支援、地域行事への協力

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

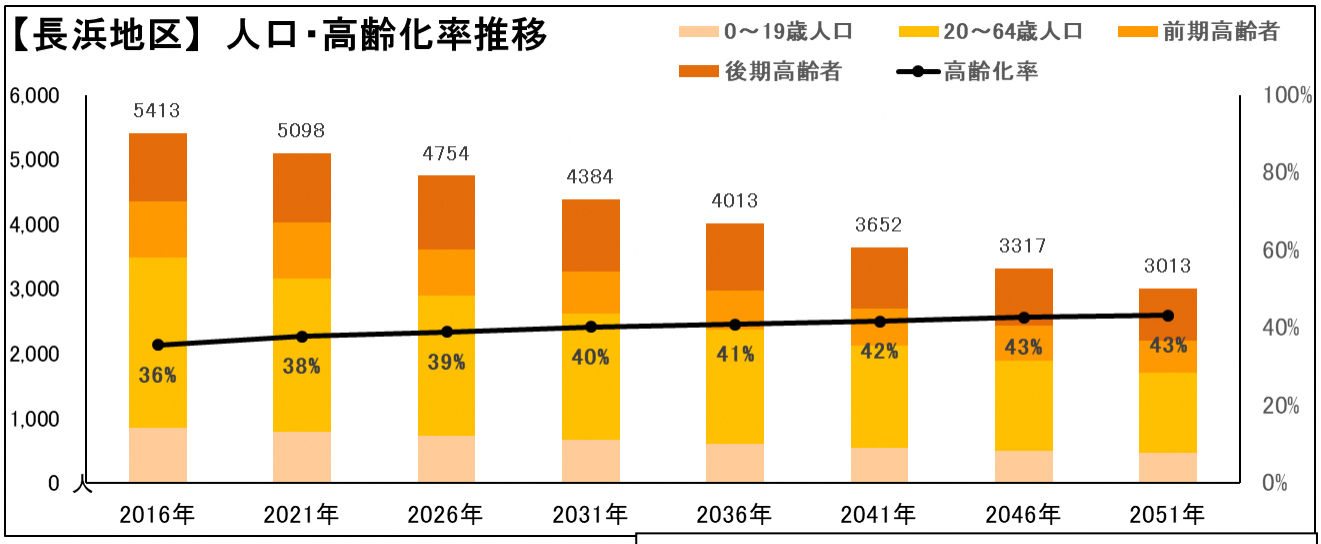
☐事務局機能　☑関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

長浜地区の強み

・長浜港をはじめ、海に関する地域資源が豊富である。
・港町としての歴史文化がある。
・主要幹線道路沿いに位置し、交通機関へのアクセスに利便性がある。
・地区まちづくり推進委員会とまちづくりセンターが１対１の関係のため、連携が取りやすい。

長浜地区の課題

・各分野での人材育成を進めることで活気あるまちづくりが期待されているが、若い世代を中心に当事者意識が低く、それぞれの団体や町内会などでスムーズな世代交代を如何にして行うかが課題である。
・日中、地域外で働く世帯が多く、昼夜間人口を念頭においた防災計画をたてる必要性が感じられる。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

長浜まちづくりセンターの新たな取組

事業名

馬　島　探　検

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

①長浜地区まちづくり計画をもとに、地域住民が海の大切さを再認識し、灯台や島の歴史を学ぶことで更に関心を高める。

②馬島周辺の海岸への漂着物を調査して環境問題について考える。

③海上から郷土を眺めることで、ふるさとへの愛着を深め郷土に誇りを持つ。

④水産高校や浜田海洋少年団などの団体と連携・協力し、地域との関係性を深める。

D

事業の概要

８月８日　9:30～14:00　（参加者：海洋少年団員とその保護者１７名）

参加児童は、浜田水産高校の生徒からロープワークの実技指導を受けた後、船で馬島へ向かう。到着後、島周辺の漂着物を調査し、厳島神社を見学。島内を歩いて灯台を目指す。灯台施設を見学しながら昼食をとり、船で水産高校へ戻る。

○子ども達が積極的に活動に取り組む様子から、浜田市が提唱する海洋教育の理念を理解させるための興味付けにはなったと思われる。

○当日は台風と高潮のため安全を最優先と考え、漂着物調査に十分な時間がとれなかったが、あらかじめ天候不良時のメニューを用意していたので、対応することができた。

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
						○			

上記評価の理由

参加者の学びが深まり、海洋ゴミへの関心が高まったと共に、今回参加出来なかった地域住民の中に事業に興味関心を持つ人が増えた。

また、協力機関である浜田水産高校職員による評価も高かった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○安全面を最優先に、関係機関と十分な打ち合わせを行い、不測の事態を想定しながら取り組む。

○まちづくり推進委員会や他団体とも連携し、定期的に実施することで地域住民の学びを深め、事業を協働の場とする。

周布地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　4,957 人
(2)世 帯 数　2,297 世帯
(3)面　積　　13.34 ㎢
(4)高齢化率　32.31%

主な施設

□市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☑中学校　□高等学校　□専門学校・大学
□図書館　☑病院　☑スーパー　☑コンビニ
☑ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☑その他（　JR 周布駅　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：周布地区まちづくり委員会
設立年月日：令和３年６月 27 日
構成団体：各町内会等(10 団体)、各種地域団体(21 団体)
主な活動：R4 事業計画策定及び地区まちづくり計画策定に向け、月 1 回のペースで会議等を実施。

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

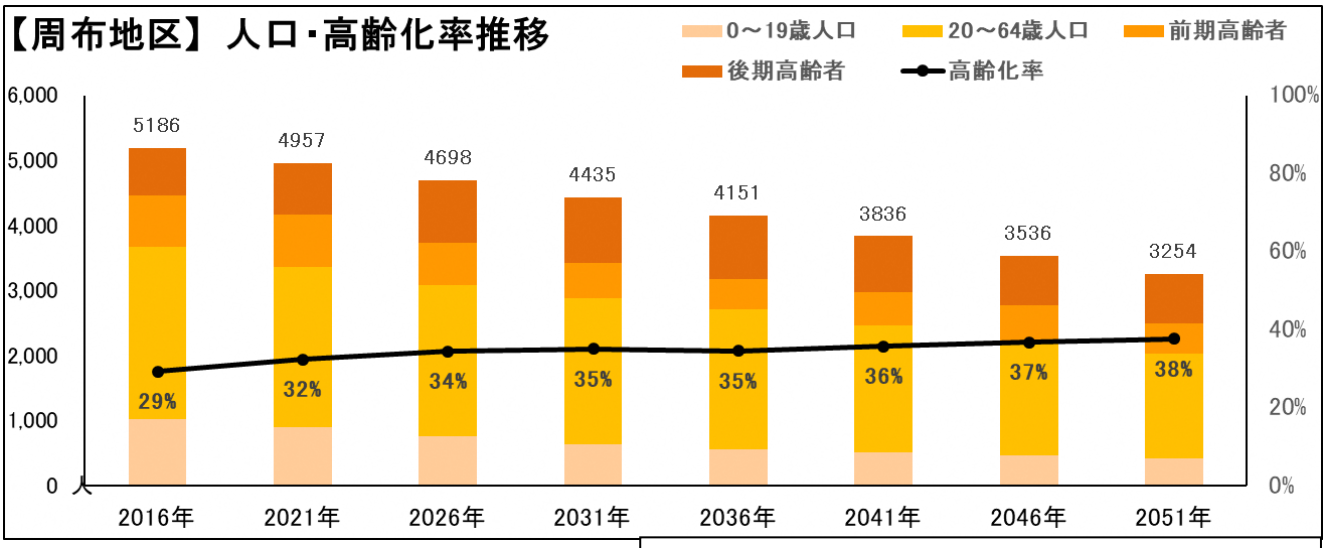
□事務局機能　☑関係団体との連絡及び調整役　□特になし
□その他（　　）

周布地区の強み

・新興住宅地があり、若い世代が比較的多い地域である。
・令和３年度に周布地区全体で「周布地区まちづくり委員会」が立ち上がったことで、新たなまちづくりの動きが生まれる土台ができている。

周布地区の課題

・地区まちづくり推進委員会が立ち上がったばかりであり、具体的な計画がこれからである。
・委員会の役割や活動の周知方法



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

周布まちづくりセンターの新たな取組

事業名

「周布地区まちづくり委員会」への事業支援及び新事業計画策定への協力

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

①周布地区まちづくり委員会が設立（令和３年６月27日）され、今後に向け委員団体として協力していく中で、事業内容の更なる充実と事業への参加者（特に若者）を増やす。

②地域全体と周布地区まちづくり委員会との調整役、「活動部会：Ⅲ．地域活性化」所属団体としての活動支援や協力。（地区民体育大会、ｸﾞﾘｰﾝｶｰﾍﾟｯﾄ事業など）

D

事業の概要　　センター参画部会：「Ⅲ．地域活性化」

〇人の交流を活性化

既存行事、地区全体イベント「地区民体育大会、ｸﾞﾘｰﾝｶｰﾍﾟｯﾄ、地区外との交流（周布川まつり復活）」など継続や中止回避、復活検討へ委員として協力する。

〇団体活動活性化支援

新事業の発掘と積極的協力、団体間の交流活発化、若者の事業参加支援協力をする。

〇地域環境、歴史、伝統を守る

地域資源の活用（休耕田、空き家活用）、地域草刈り隊創設（人手不足地域への協力）、地域歴史を学ぶ（講演会の支援協力）伝統（神楽についての学習）支援協力をする。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
				○					

上記評価の理由

まちづくりセンターが設立準備の事務局を担い、令和３年６月に周布地区全体で「周布地区まちづくり委員会」が立ち上がったことは成果である。

現在、事業計画の策定途中であり、設立及び活動内容の周知徹底が十分にできていないことが課題として残っている。

併せて、既存の地域活動や事業の集約検討、一本化についても大きな課題である。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

〇「まちづくり委員会の活動」を各町内会、地域住民への周知徹底に協力していく。

〇既存する地域活動の改善や維持、継続を図る提案など、地域活性化へ協力する。

〇センターとして過去関与事業での課題を、周布地区まちづくり委員会へ助言サポート等、新規取組事業立上げの協力をする。

大麻地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　190 人
(2)世 帯 数　125 世帯
(3)面　　積　2.82 ㎢
(4)高齢化率　62.10%

主な施設

□市役所(支所含む)　□幼・保育園　□小学校
□中学校　□高等学校　□専門学校・大学
□図書館　□病院　□スーパー　□コンビニ
□ガソリンスタンド　□公園　□広場・体育館
☑その他（　JR 折居駅　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：大麻地区まちづくり推進委員会
設立年月日：平成 21 年９月 18 日
※平成 29 年３月から活動を休止し、現在に至る。

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

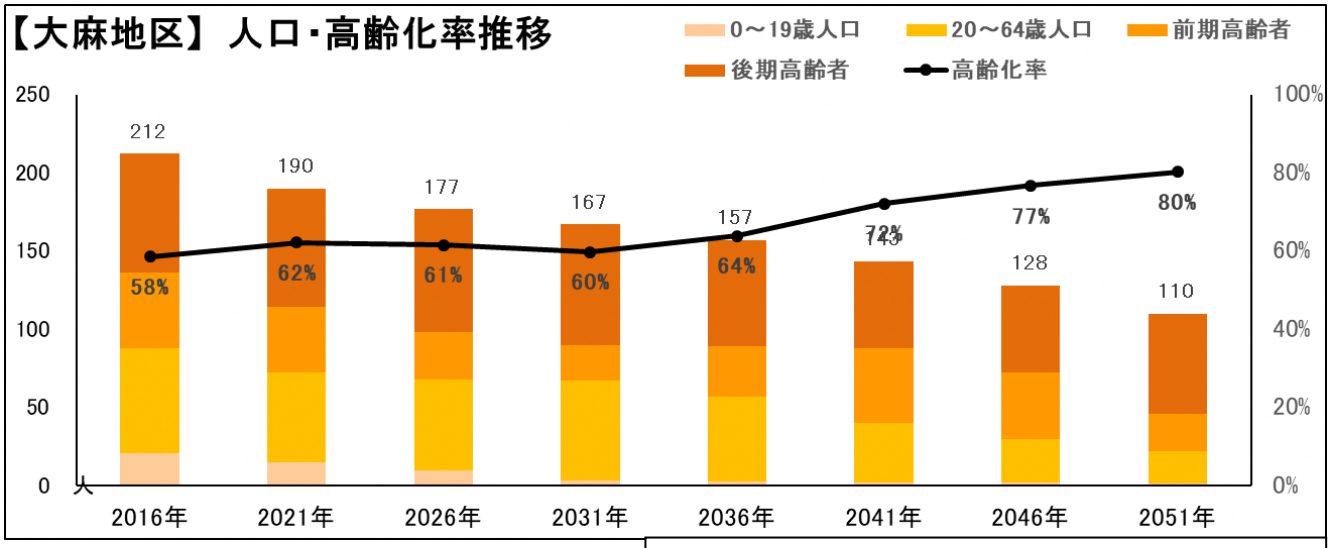
□事務局機能　□関係団体との連絡及び調整役　□特になし
☑その他（設立から活動時、事務局を担っていた　）

大麻地区の強み

・美しい海(特に夕日は絶品)と山に囲まれた豊かな自然
・夏の折居海岸は穴場スポットであり、県内外から来客がある。
・折居駅は島根県立大学生と一緒に駅外観をリニューアルし、テレビで『海から近い駅』と紹介された撮影場所になっている。

大麻地区の課題

・令和３年４月末現在、人口 190 人、高齢化率 62.10%、生産年齢人口率(15 歳~64 歳)31.6%、弱年齢層率(5 歳~14 歳)5.8%と市内でも少子高齢化が特に進んでいる。
・それに伴い、地区の活動も停滞していることが大きな課題となっている。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

大麻まちづくりセンターの新たな取組

事業名

花のあるまちづくり事業

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

まちづくり委員会が休止となっていることから、大麻地区 3 町内で協力して参画できる事業を展開することにより、まちづくりに対する意識の共有を図ることを目的とし、当委員会再稼働への第一ステップとして位置付けている。

D 事業の概要

9 号線からの車窓・JR からの車窓から見えるロケーションに恵まれた約 300 坪の土地に、コスモスを植え風光明媚な場所造りに取り組む予定。

第一段階　草刈り及び草処理　（作業予定日　令和４年２月 13 日(日)）
第二段階　根駆除作業・肥料散布　（作業予定日　令和４年２月 20 日(日)）
第三段階　種まき　（作業予定日　令和４年３月 13 日(日)）
第四段階　草抜き等のその後の管理

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
				○					

上記評価の理由

○運営推進委員会(4 月 16 日開催)に当事業提案、運営推進委員会(12 月 10 日開催)に作業日程(案)及び事業継続の取組(案)を協議し、センター職員、委員ともに事業の目的についての認識を共有した。
○大麻自治会総会(5 月 21 日開催)に当事業の協力を要請し、連携強化を図った。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○地域住民への協力依頼の取組として、センター職員が各家庭を訪問し、協力チラシを配布するだけではなく、出来るだけ対面で事業趣旨の説明をし、まちづくりに対する意識の共有を図る。
○体力を要する事業のため、無理な作業工程は避け、楽しみながら作業が出来る仕組みづくりに取り組む。将来的には、一部に芝生を張り、憩いの場所にしたいと考えている。

花を植える場所です。
令和３年 10 月時点の写真です。
令和４年２月からスタート！！！

美川地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　1,706 人
(2)世 帯 数　843 世帯
(3)面　　積　34.13 ㎢
(4)高齢化率　44.20%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☑中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☐図書館　☑病院　☐スーパー　☐コンビニ
☐ガソリンスタンド　☐公園　☑広場・体育館
☑その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：美川地区まちづくりネットワーク
設立年月日：平成 22 年４月１日
構成団体：美川地域町内会、美川手作りネット、美川野球スポーツ少年団、美川クラブ、美川体協等
主な活動：各町内会のコミュニティ活動、美川地域体育大会、青少年育成促進事業、美川手作りネット事業、美川夏祭り、農村広場管理など

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

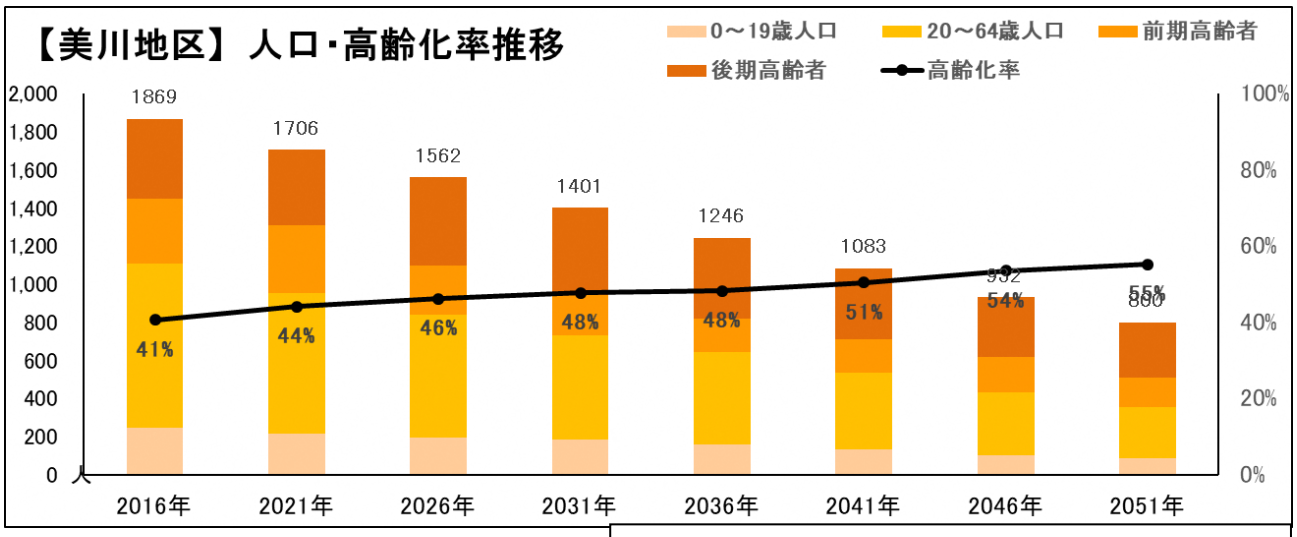
☐事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☑特になし
☐その他（　　）

美川地区の強み

・子どもを地域の宝として、地域ぐるみで見守り育んできている。
・今年度より実施している『美川まちづくり楽市』を通して、地域の方が集まり、コミュニケーションの場となりつつある。
・市内中心部から車で 10 分の距離であり、学校施設等も整っている。

美川地区の課題

・少子高齢化による地域活動の衰退。
・連合自治会が解散したことによる、地域住民の意思疎通の場の減少
・まちづくり推進委員会との関係づくり



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

地域の買い物支援事業『美川まちづくり楽市』

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

〇美川地域の商店空白地帯の解消、公共交通の減便や廃止に加え、運転免許証の返納に伴い、買い物弱者の生活援助の一助となるよう、新鮮、安全、廉価をモットーに朝市を開き、併せて地域生産者と消費者の交流、地域活性化を目指す。

〇買い物の不便、苦労がしいては食品摂取量の減少、孤食につながり、健康面でも心配。新鮮な食材が安く手に入り、朝市に来る事で会話が生まれ、コミュニケーションの場となる。

〇自分で買い物する事で脳の活性化につながる。

〇生産者は野菜作りや売る方法を考える等意欲が高まり、地域の為にどうしたら良いかを自発的に考える機会に繋がる。

D 事業の概要

〇令和３年８月７日よりスタート・毎月第１，第３土曜日　朝８時から９時まで

〇美川まちづくりセンター前　雨天時：センターロビー内

〇美川まちづくり楽市実行委員会(代表、実行委員長、事務局長他４０代～８０代まで計１４名)

〇地域の方が育てた野菜、果物、加工品、手作り品、花、干魚などを販売。

事業の実施において工夫した点、成果、課題、改善点等

〇季節に応じた野菜、果物を安価に提供する事で購入しやすい。

〇生産者の意欲向上、自発的思考。〇高齢者の健康増進。〇毎月チラシを発行。朝市の旗を前日に立てる事で地域へお知らせ。　〇課題：施設面、天候に左右される。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							〇		

上記評価の理由

〇生産者が意欲的に取り組んでいる。

〇地域の方、利用される方に大変好評であることが何よりである。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

〇地域へさらなるアピール

〇他地域の朝市を視察

〇品物の検討(消費者のニーズを把握)

〇節目にイベントを行う。

〇利用者、高齢者の憩いの場を作る。

〇雨天時等安心して運営できる環境整備

国府地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　5,679 人
(2)世 帯 数　2,667 世帯
(3)面　　積　34.90 ㎢
(4)高齢化率　35.82%

主な施設

□市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☑中学校　☑高等学校　□専門学校・大学
□図書館　☑病院　☑スーパー　☑コンビニ
☑ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☑その他（　国府海岸、石見海浜公園　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

①上府町まちづくり推進委員会(平成 24 年４月１日設立)夏祭り、文化祭、イルミネーション事業　自主防災　他
②下府町まちづくり推進委員会(平成 25 年４月１日設立)各団体の事業運営支援(高齢者クラブ・自治会・青年団　他)
③宇野町・下有福町・大金町まちづくり推進委員会(平成 26 年９月 27 日設立)スポーツ交流会、自主防災　他
④久代地区まちづくり推進委員会(平成 28 年６月４日設立)はまぼうふう・久代川保全活動　他
⑤国分の里まちづくりネットワーク(平成 29 年４月 23 日設立)運動会、清掃活動、防災講習会　他
⑥とうがねまちづくり推進委員会(令和元年６月 29 日設立)ウォークラリー大会、防災レク　他

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

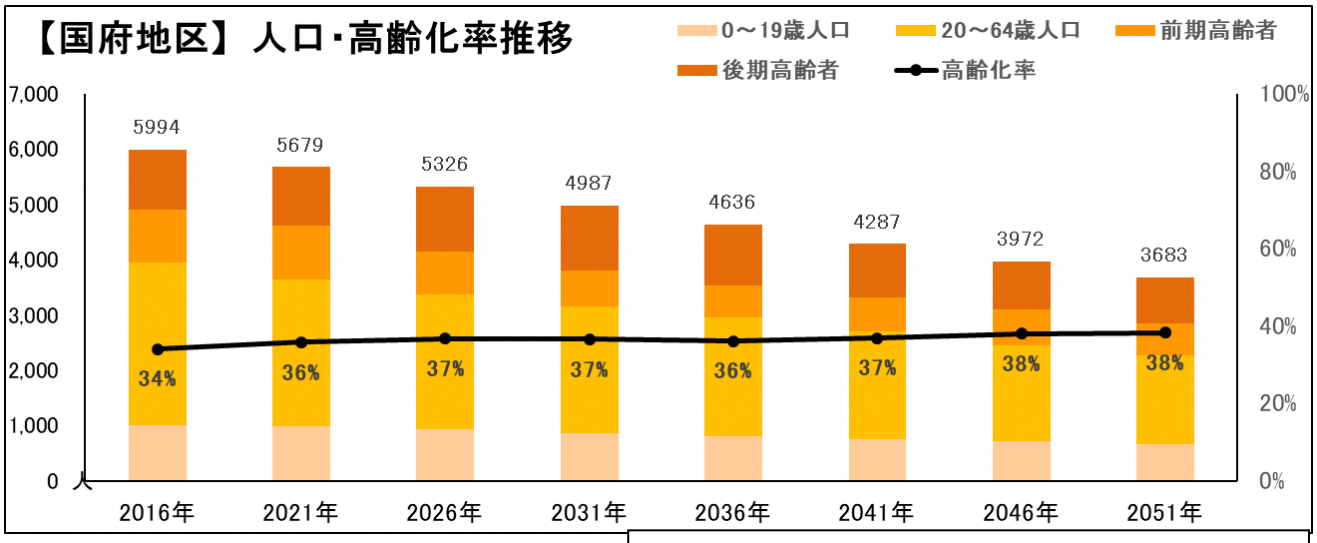
□事務局機能　□関係団体との連絡及び調整役　□特になし
☑その他（地域への広報、事業運営協力　）

国府地区の強み

・すべてのエリアで、まちづくり組織が立ち上がっている。現時点で、地区内でまちづくり組織が複数あり、組織率100%は国府地区だけである。
・各エリアそれぞれで自治会や自治公民館運営、高齢者クラブや青年団と連携しながら特色のある活動をしている。
・夏場は海水浴客も多く、「海」が重要な地域資源である。

国府地区の課題

・エリア全体でまちづくり組織ができているが、人口の多い地域、少ない地域の差が大きく、少子高齢化の進んだ地域も多くみられる。
・子育て世代の地域活動への参画は、昔と比べて減少している。そのため町内会・自治会の役員も高齢化率が高い。
・国道から離れた地域は市営バスの運行が年々減少しており、高齢者だけでなく学生の交通手段が無い状況である。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

国府地区まちづくり推進委員会　意見交換会

P　事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

すでに設立されている各まちづくり推進委員会の活動内容を聞き、まちづくりセンターとして連携を図るためにどんなことが出来るか意見交換会を実施。多くの住民が「まちづくり」について知らないことも多いので、センターが広報的な役割を担うことで興味・関心をもってもらえるようにしていきたい。

D　事業の概要

『国府地区まちづくり推進委員会　意見交換会』

日　時：令和３年６月７日(月)　19 時～20 時半

会　場：国府まちづくりセンター　研修室

参加者：各まちづくり団体代表者，国府まちづくりセンター職員　計 16 名

内　容：各まちづくり組織の活動状況(関係団体や事業等)や、各地区の課題についての聞き取り。

C　課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
					○				

上記評価の理由

顔を合わせること自体初めてだったため、集まっていただけただけでも成果はあった。それぞれに課題が違うため、個別に聞き取りもしていければと思う。

A　事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

自分の住んでいる地区での取組を、もっと知ってもらうことが大事と考える。若い世代の参画を促進するため、情報発信の強化をしていきたい。まずは取組紹介リーフレットを作成し、広く広報をしていく。

現在６つのまちづくり団体の紹介リーフレット作成中。
年度末には国府地区の全戸に配布予定。

久佐地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　315 人
(2)世 帯 数　151 世帯
(3)面　　積　18.48 ㎢
(4)高齢化率　48.89%

主な施設

□市役所(支所含む)　□幼・保育園　□小学校
□中学校　□高等学校　□専門学校・大学
□図書館　□病院　□スーパー　□コンビニ
□ガソリンスタンド　☑公園　□広場・体育館
☑その他（かなぎウエスタンライディングパーク）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：久佐地区まちづくり振興会
設立年月日：平成 23 年 11 月 1 日
構成団体：各町内会、まちづくりセンター、高齢者クラブ、JA 女性部、食生活改善推進委員会、山陰久佐松竹座、神楽社中、田ばやし保存会
主な活動：久佐地区慰霊祭・納涼大会・運動会・敬老会・文化祭の開催、各町内への支援、環境整備

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

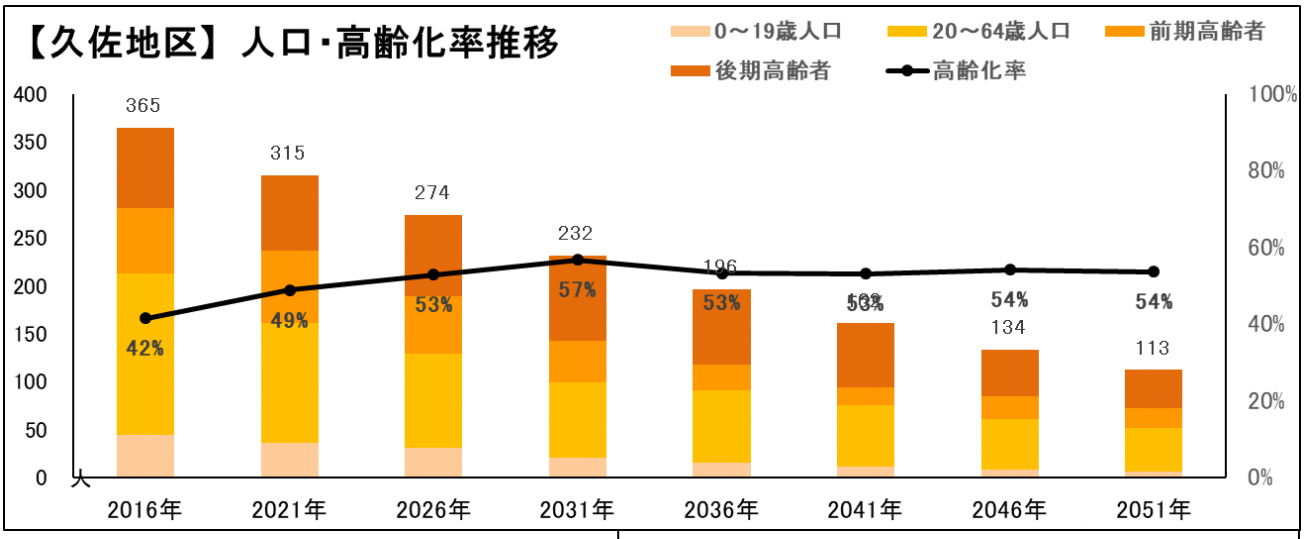
□事務局機能　☑関係団体との連絡及び調整役　□特になし
☑その他（　事務及び会計補佐　）

久佐地区の強み

・豊かな自然
・かなぎウエスタンライディングパーク
（乗馬体験、食事、動物とのふれあい、公園、オートバイ神社）
・伝統芸能
（山陰久佐松竹座、久佐西組神楽社中、久佐東神楽社中、田ばやし保存会）
・島村抱月生育の地

久佐地区の課題

・交通対策
（買い物や通院等の交通弱者、免許返納後の交通手段、等）
・農地の荒廃、担い手後継者の不在
・少子高齢化
（独居、高齢者世帯の増加、等）
・地域を引っ張っていくようなリーダー的存在が見つかっていない



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

地域の防災力を高め 命を守ろう！！

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

○久佐地区まちづくり振興会と共催で行うことにより、防災・減災に対する意識を高める。
○実際に災害が起きた際にどう対応・行動すればいいかを事前に学び、考えておくことで自分と家族を守る行動がとれる。
○防災バッグを全戸配布し、非常持ち出し品などの確認・準備をするきっかけとする。

D 事業の概要

開催日時：令和３年 11 月 21 日（日）／令和３年 12 月５日（日）
会　　場　：久佐まちづくりセンター
共　　催　：久佐地区まちづくり振興会防災会・久佐まちづくりセンター
対　　象　：地域住民
内　　容　：第１部　講演：災害派遣から学ぼう！　演題『災害派遣で思ったこと』
元陸上自衛官の方を講師に迎え、被災の現状や災害救助等のお話をして頂き、家庭や地域での防災減災意識を高めた。
第２部　我が家の避難行動計画「マイタイムライン」を作ろう！
配布した資料を参考に各自でマイタイムラインを作成し、グループに分かれ意見交換をした。人と話すことで課題やアイデアに気づき、見直すことができる。また、ハザードマップで避難が必要な区域を確認し、正しい避難行動を考えた。
第３部　災害に備え、非常持ち出し品を準備しよう！
全戸に防災バッグと懐中電灯を、５歳以上の住民に１人１つずつ緊急用ホイッスルを配布し、防災・減災意識を高めるきっかけとなった。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
								○	

上記評価の理由

参加者から
「とてもよかった」
「またやってほしい」
「毎年やってほしい」という声があった。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○様々な情報を仕入れ、新しい知識を学び発信・共有する。
○実践／体験プログラムを組み込み、実際に体験することで現実的に考えたり身に着けたりしてもらう。
○内容を変えながら定期的に事業を行う。
○年度始めに計画を役員で話し合い、事業を実行する。

今福地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　499 人
(2)世 帯 数　222 世帯
(3)面　　積　15.82 ㎢
(4)高齢化率　44.29%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☐中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☐図書館　☐病院　☐スーパー　☑コンビニ
☑ガソリンスタンド　☐公園　☑広場・体育館
☐その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：今福地区まちづくり委員会
設立年月日：平成 23 年７月 12 日
構成団体：各町内会、今福自治振興会、今福地区社協、今福地区自主防災会、福寿会、今福文化サークル、中山間今福広域協定、今福おてまやさん、ゆるり、わかすけ、もやい市、ほっかほっか会、シャインマスカット栽培 PJC
主な活動：今福文化祭、いまふく土曜夜市、他町内会交流(合同いきいきサロン)、買物バスの運行、環境整備・福祉奉仕、毎月第１・３土曜日に“もやい市”を開催、さつま芋栽培及び販売、シャインマスカット栽培及び販売

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

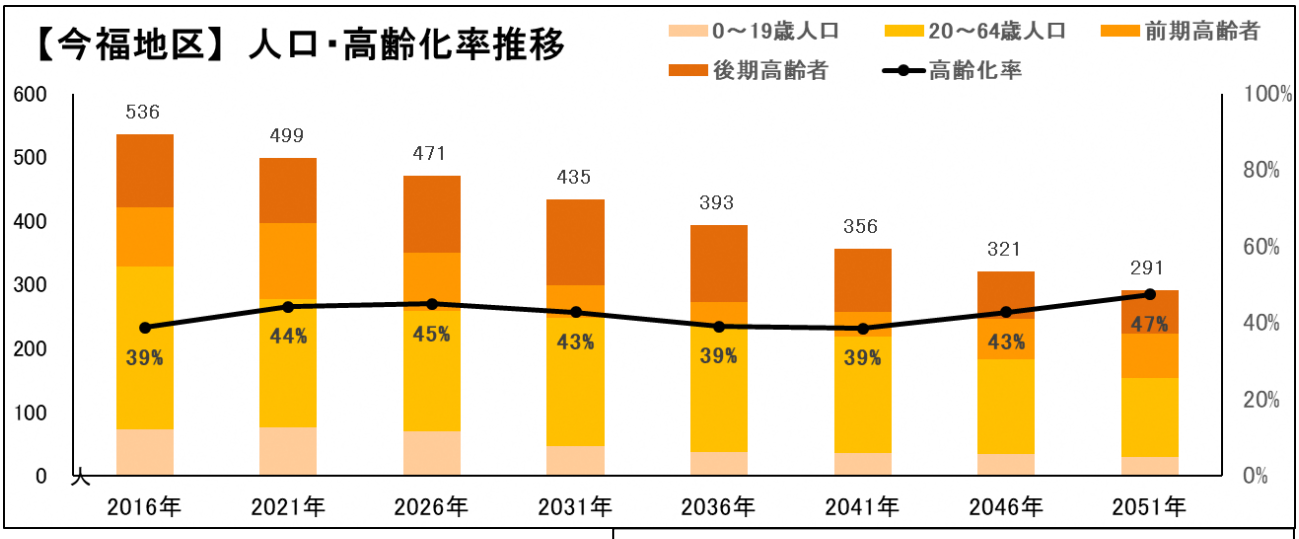
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

今福地区の強み

今福地区まちづくり委員会、今福自治振興会、福寿会、今福まちづくりセンターが、車の四輪のように、お互いに協力して事業を行っており、相乗効果を発揮している。

今福地区の課題

・数年後には増大すると思われる、交通弱者の皆さんの病院や買い物支援の検討。
・独居高齢者を孤独化させないための方策の検討。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

今福まちづくりセンターの新たな取組

事業名　**今福地区まちづくり委員会「もやい市」×今福まちづくりセンター社会教育部**

もやい市に学びの場（令和3年6月～12 月　計7回）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

①もやい市の賑わいの創出

②親子の地域参画のきっかけ作り

③多世代交流（活動人口の増加）

D

事業の概要　「もやい市号」の買い物バスの待ち時間を利用した１～2 時間程度の学びの場

【6月】保護者世代女性組織「ゆるり」によるフリマ・雑貨販売（販売チャレンジ①）

【7月】ワンコインカフェ　【8月】リアリバさんによるウクレレとうた生演奏

【9月】スマホ教室・ワンコインパフェ「今福良品」

【10 月】貸本屋・「スープストックイマフク」

【11 月】保護者世代フリマ・スィートポテト販売（販売チャレンジ②）

【12 月】ニット小物販売（販売チャレンジ③）・ユニット「FREE」ダンス披露

成果…もやい市の立ち寄りサロンとなり、買い物客の居場所作りになっている。

また、30～70 代までの地域の方の販売や学びの場となることで、次のロールモデルとなり地域住民の活動意欲が高まった。

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
				○					

上記評価の理由

①賑わいの創出…もやい市の来場者が前年度より増加。今年度からスタートした買い物バスの運行とそれに併せて行っている学びの場の提供がよい結果を創出していると考えられる。

②親子地域参画、③多世代交流…コロナ禍により２件計画を断念し課題が残っている。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

- 50～60 代の活動人口を増やす。
  参画したくなる企画を実現する。
- 親子世代の活動人口を増やす。
  広報や宣伝方法を工夫する。

美又地区の概要

概要(令和２年４月現在)

(1)人　　口　276 人
(2)世 帯 数　142 世帯
(3)面　　積　19.37 ㎢
(4)高齢化率　55.80%

主な施設

□市役所(支所含む)　□幼・保育園　□小学校
□中学校　□高等学校　□専門学校・大学
□図書館　□病院　□スーパー　□コンビニ
□ガソリンスタンド　□公園　□広場・体育館
☑その他（　美又温泉　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：美又湯気の里づくり委員会
設立年月日：平成 23 年６月 21 日
構成団体　：自治振興会、各町内会、地区社協、寿会、湯気の会他
主な活動　：美又温泉イベント、盆踊り、地区サロン、地区 GG 大会
特産品加工・販売、民具継承他

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

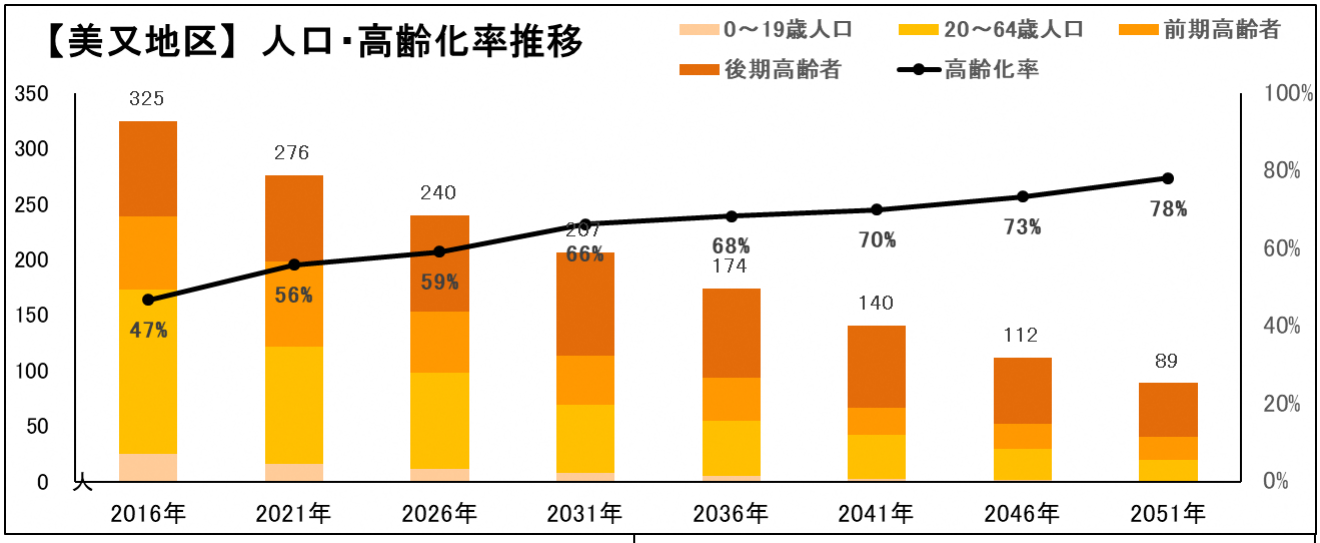
☑事務局機能　□関係団体との連絡及び調整役　□特になし
□その他（　　）

美又地区の強み

・地区内に、市内の観光施設にもなっている美又温泉があり、外部から一定程度地区への入込客がある。
・少数ではあるが、地区へのＩターンなどがあり、地域の元気につながっている。

美又地区の課題

・小学校、保育園が廃止となり一段と少子化が進んでいる。
・人口減少及び少子高齢化が進行しており、集落の維持が難しい町内会が増えつつある。
・コロナ禍により、美又温泉や地区特産品販売などが大きな影響を受けている。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

美又まちづくりセンターの新たな取組

事業名

関係人口の拡大

P　事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

美又地区は、市町村合併後小学校及び保育園が廃止となり、子育て世代の地区外への転出などにより少子化が顕著となってきている。こうした状況からセンター事業でも地区外からの参加を積極的に受け入れ、地域の方との交流を行うことで地域の元気につなげ、併せて地区外の応援者を増やすことで美又地区の活性化につなげることを目指している。

D　事業の概要

センターの単独事業として令和３年度から取組を開始しており、センター事業の地区外参加者等に呼び掛けセンターの応援者として会員登録している。

登録者には、チラシやお知らせの送付、SNS を活用するなどセンター事業への参加募集を行い、子育て世代を始め、県立大学生などの若い世代に活動へ参加してもらうことで、地域との交流により美又地区の元気につながる活動とする。

現段階では、普段からの情報発信までは取り組めていない。

対象：地区外親子、県大生、若い世代　他

C　課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		○							

上記評価の理由

コロナ禍の影響もあり、徐々に進めている。

A　事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

先々は、まちづくり委員会との連携事業に移行し、「美又応援者」として地域の情報発信に力を入れて、地域の活性化に繋げていくことを検討したい。

8/7　竹灯籠づくり

12/11　干し大根づくり

雲城地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　2,339 人
(2)世 帯 数　1,059 世帯
(3)面　　積　33.39 ㎢
(4)高齢化率　34.59%

主な施設

☑市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☑中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☑図書館　☑病院　☑スーパー　☑コンビニ
☑ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☐その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：雲城まちづくり委員会
設立年月日：平成 23 年６月 23 日
構成団体：各町内、くもぎコニュニティ自治会、高齢者団体、女性・若者団体、教育福祉機関、地域事業者　等
主な活動：町内会及び活動団体への支援、ハッチョウトンボを活用した環境活動と交流人口の拡大、タカキビ栽培や加工商品の開発など

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

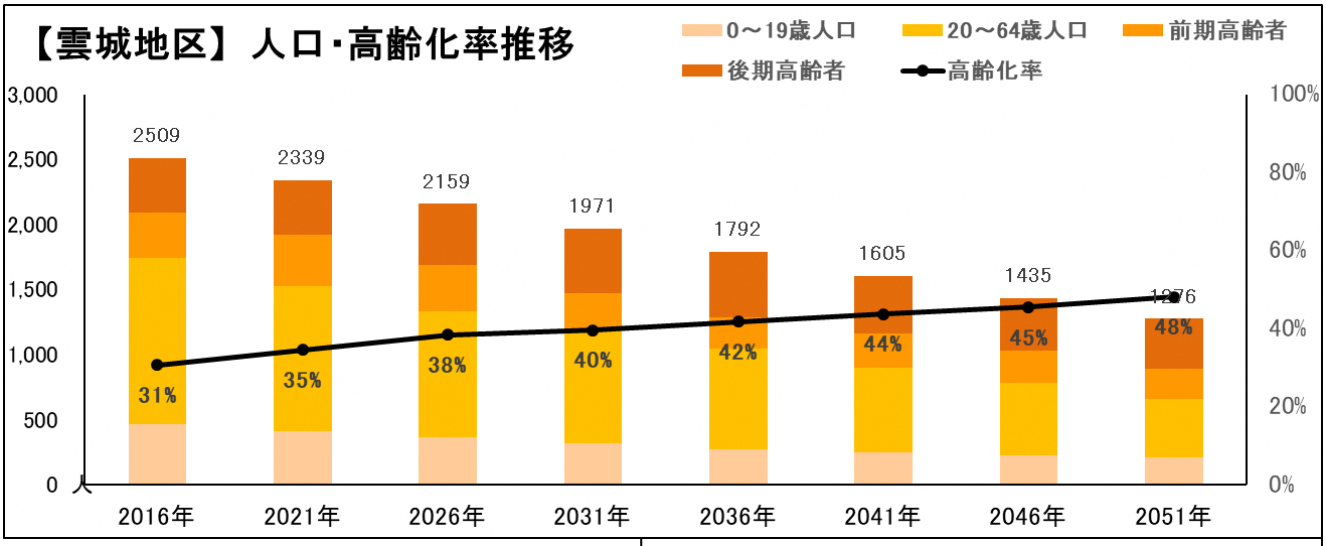
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

雲城地区の強み

・浜田市中山間地域において、比較的人口も多く、若者も多い。ＵＩターン者も比較的多い。
・豊富な人材と活動団体
・金城地域内の主要施設（金城支所、学校関係、保育園、スーパー、医療機関、金融機関等）がそろっている。

雲城地区の課題

・組織している町内会も多く、人口も多いため、一体感が薄い。
・地域が広く地区内の現状を把握しづらい。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

独り暮らし高齢者花鉢プレゼント＆高齢者生活実態調査

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

〇きっかけ：「買い物や草刈りで困っている高齢者の力になりたい」という雲城地区住民の声

〇ねらい：高齢者の生活の現状把握と課題解決、まちづくり活動への参加者拡大

〇予想される成果：高齢者のニーズから生活支援や集い等福祉事業を計画、実施
他機関と連携し、地域住民を巻き込みながら協働で地域福祉のまちづくり活動を推進

D 事業の概要

高齢者生活実態調査

〇事業対象者は、80 歳以上の一人暮らし高齢者に絞り、社会福祉協議会が年末実施している「まごころ弁当と安否確認」事業に同行して実施を計画→浜田市社協金城支所及び民協定例会での事業説明、協力依頼→賛同を得て、民生委員に同行し高齢者宅を訪問、花鉢とメッセージを届け、生活実態調査も配布し記入のお願い→高齢者の方と直接会話をし、普段の生活の困りごとを聞くことができた。

〇生活実態調査項目について、社協生活支援コーディネーター、浜田市まちづくりコーディネーター（コミュニティナース）に相談、内容やレイアウトについて専門的なアドバイスをもらい調査票を作成した。

〇調査票集計→まちづくり役員、社協、浜田市まちづくりコーディネーターとの意見交換会を開催する。

花鉢プレゼント

〇まちづくりセンター恒例の「寄せ植え教室」の参加者や講師が花鉢づくりに協力し、40 鉢が完成した。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
								〇	

上記評価の理由

調査表の回答率は 74%。高齢者対象の調査は回答が難しいと社協から指摘されたが、花鉢のプレゼントに合わせ個別訪問、顔を見て調査依頼をしたことが回答率の高さにつながった。用紙に書ききれない思いや現状など便箋に追記同封された高齢者もあった。未回答者には再度訪問するなど、聞き取りを行う予定。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

〇高齢者生活支援調査の対象をサロン参加者に対しても実施、より多くの高齢者の声を集める。
（独り暮らしだけでなく高齢者世帯の調査実施）

〇調査結果を参考にしながら、具体的なの生活支援実施にむけ、活動組織、団体の立ち上げや支援を行う。

〇サロンを実施していない地域の高齢者が参加しやすい雲城全体のサロンの開催を検討する。

波佐地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　438 人
(2)世 帯 数　224 世帯
(3)面　　積　56.66 ㎢
(4)高齢化率　53.42%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☐中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☐図書館　☐病院　☐スーパー　☐コンビニ
☑ガソリンスタンド　☑公園　☐広場・体育館
☐その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：波佐まちづくり委員会
設立年月日：令和３年４月 13 日
構成団体　：波佐自治会・各種団体
主な活動　：無償ボランティア移動支援事業・各種団体への支援・地域商品券

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

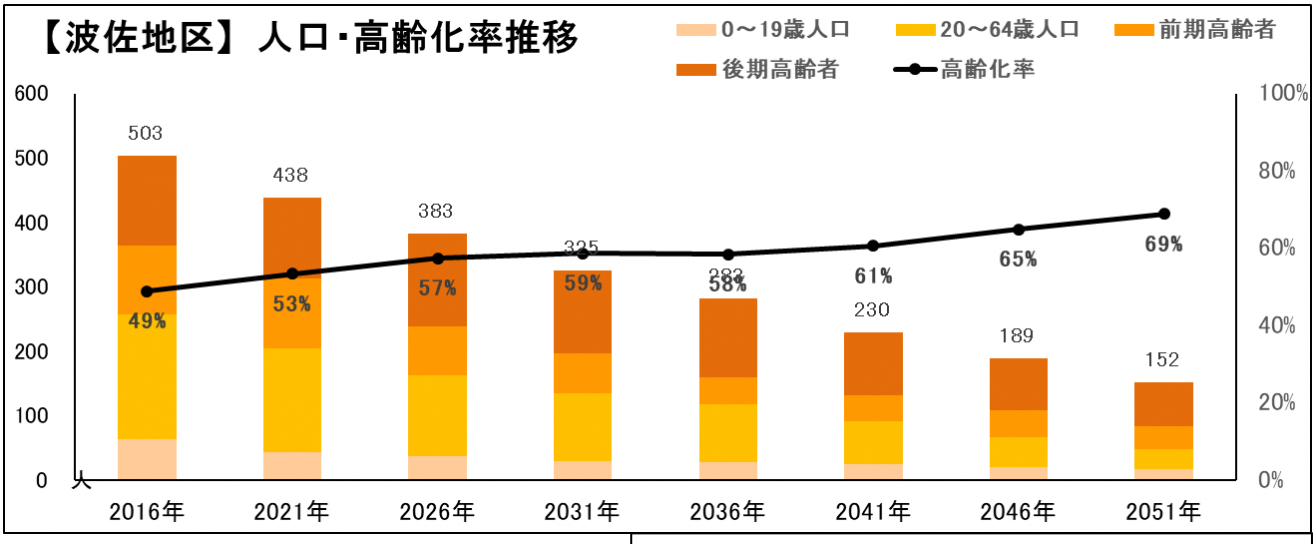
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

波佐地区の強み

・保育園・小学校があることで一緒に活動ができる。
・各種商店があるので、地元で最低限の生活用品が揃う。
・診療所がある。
・課題が山積であり、その分チャレンジする土台がある。

波佐地区の課題

【交通対策】
・バスの便数の減少。
・ボランティアタクシーの制限がある。
（目的地・曜日など）
・年金生活者はタクシー料金が払えない。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

無償ボランティア移動支援事業

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

波佐・小国地区の福祉・医療・介護の課題検討から発足した「波佐・小国地域医療等課題検討協議会」において、高齢者等の交通・移動・外出の不便問題について検討され、従来の公共交通を補完し（波佐地区のみ）、地域の助け合いにより、安心して暮らせる支援体制の構築を図ることを目的として、無償ボランティアでの輸送サービスの提供を開始した。

D 事業の概要

運行日　　：週３日（火・木・土、ただし診療所の休診日を除く）
運行範囲　：波佐地域（利用者の自宅から診療所・金融機関・商店の往復）
ドライバー：地域の志願者（65 歳から 75 歳の５名）
事務局　　：波佐まちづくりセンター職員（３名）
利用者　　：交通手段を持たない住民
工　夫　　：利便性の拡大をした（目的地の追加）
当初、波佐診療所を目的地として開始したが、利用者の意見等により金融機関を目的地とすることで利用者が増えた。
課　題　　：高齢化によるドライバーの確保や、積雪がある地域であるため、対応できる車両の確保や安全面が課題となっている。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							○		

上記評価の理由

発足当初、目的地は診療所のみであった。利用者からの意見を取り入れ、目的地（金融機関・商店）を広げたことで、利便性が向上した。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○余裕のあるドライバー数の確保
○積雪が多い時季の安全な運行

小国地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　170 人
(2)世 帯 数　88 世帯
(3)面　　積　20.68 ㎢
(4)高齢化率　64.71%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☐小学校
☐中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☐図書館　☐病院　☐スーパー　☐コンビニ
☐ガソリンスタンド　☐公園　☑広場・体育館
☑その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：小国まちづくり委員会
設立年月日：令和３年４月 25 日
構成団体　：小国地区６町内会、小国地区社協、小国高齢者クラブ、(農)てごの里おぐに
主な活動　：環境美化、安心・安全対策、自然に親しむ会、運動会、敬老会、文化祭、とんど祭り

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

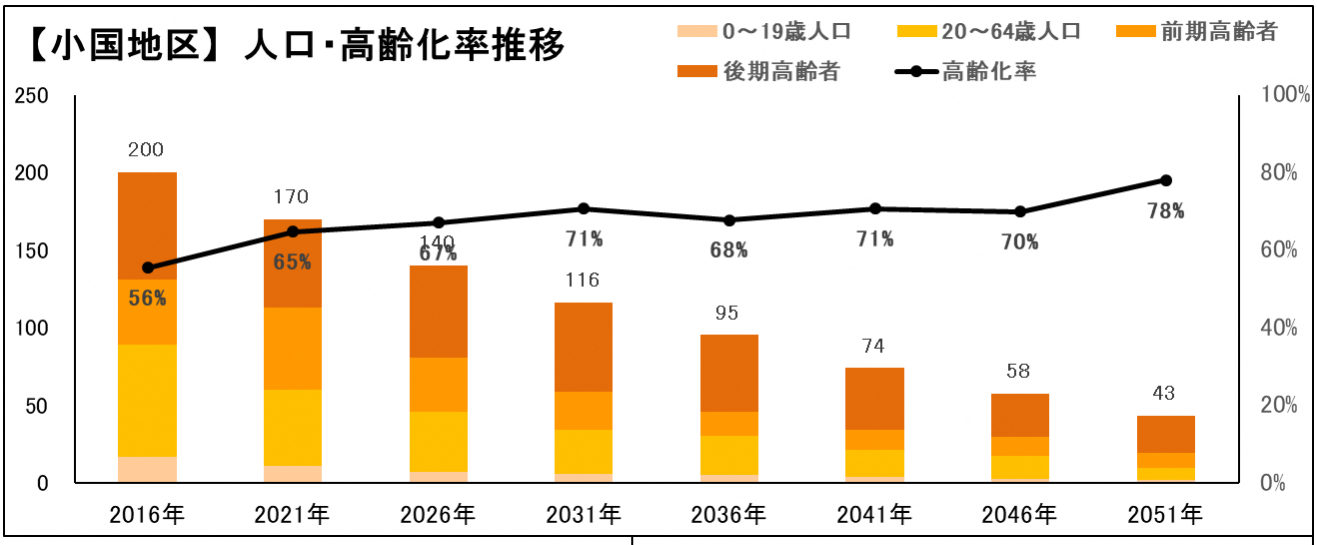
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

小国地区の強み

・世帯数（人口）が少ないがゆえに、住民同士の繋がりが深く、お互いに顔を知っていること。

小国地区の課題

・少子高齢化で地域を担う人材が少ない
・高齢者等の生活環境（草刈り、除雪）の確保
・環境（農地を含む）保全
・交通対策



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

買い物タクシーの運行支援

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

公共交通が十分でない地域のため、買い物等への移動手段を課題とし、地区内でのアンケート（聞き取り調査）を行ったところ、一人では買い物に行けない、バス停まで行くことも困難であるなど、移動手段や今後への不安をもつ声が多く、自宅まで送迎できるタクシーを利用した移動手段の確保事業を検討した。

地区内高齢者等、交通手段のない方の買い物を支援し、タクシーによる移動手段により外出機会を増やすことで利用者相互のコミュニケーションを図ることを目的としている。

D 事業の概要

10 人乗りのジャンボタクシーで毎月第 2(水)、第 4(木)の午前中に運行し、金城地域内スーパーマーケット、コンビニエンスストアまでを往復する。

運行には利用者数によって付添人を１人ないし２人配置し、乗車・降車の確認やスーパー内での買い物支援（荷物持ちなど）を行う。

利用者負担額：500 円／回（敬老乗車券利用可）、予約制で「小国まちづくりセンター」が利用受付を行い、前の週の金曜日までに申し込みを行う。

現在、今福地区まちづくり委員会が開催する「もやい市」への運行を試行的に実施中。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							○		

上記評価の理由

○付添人を配置し、利用者の乗降車の支援が確保されている。

○利用者からの口コミ等によって継続的に利用があり運行されている。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

現在は買い物支援として運行しているが、今後は地域内移動（例えば地区内行事、日帰り入浴など）も検討のうえ運行する。

今市地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　1,465 人
(2)世 帯 数　728 世帯
(3)面　　積　25.43 ㎢
(4)高齢化率　30.17%

主な施設

☑市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☑中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☑図書館　☑病院　☑スーパー　☐コンビニ
☐ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☐その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：今市地区まちづくり推進委員会
設立年月日：平成 21 年７月３日
構成団体：各自治会、高齢者クラブ、今市地区まごころ福祉協議会　等
主な活動：各自治会への支援、市子桜保全活動、敬老事業、地区運動会、健康ウォーキング、子ども部会事業（ハッピーハロウィン）

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

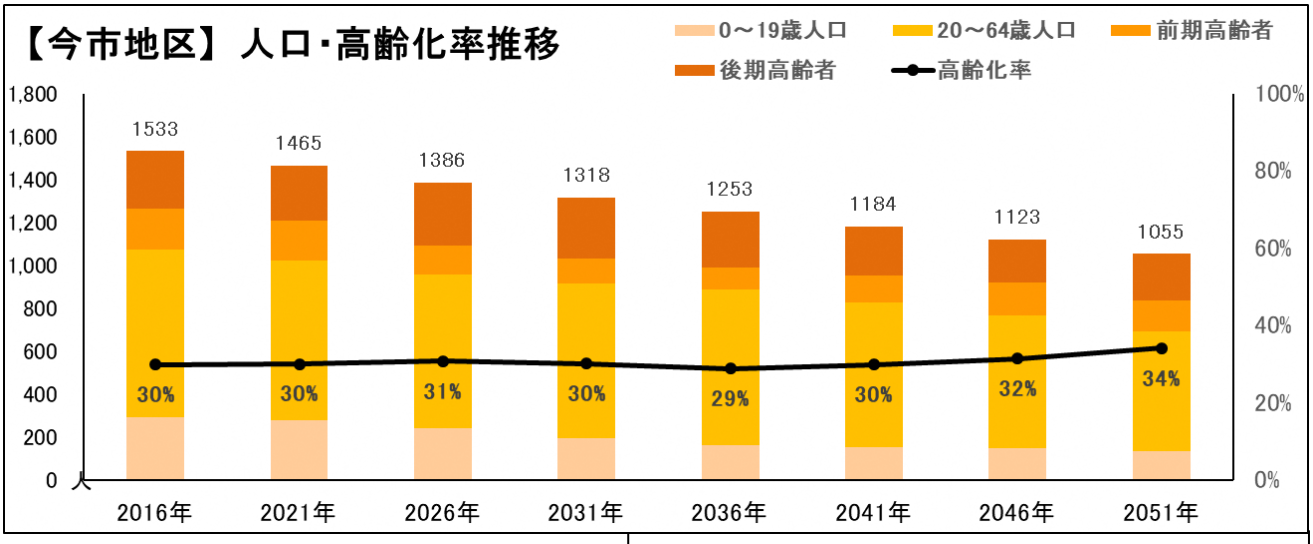
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

今市地区の強み

・市役所の支所、JA や信金の支店、子ども園、小中学校を有する旭地域の中心地である。また、浜田道旭 IC を有し広島市街へ１時間余りという利便性も備えている。
・平成 20 年には「島根あさひ社会復帰促進センター」が開所し、若い世代を中心に人口は一気に 300 人増え自治会も 1 つ増えた。今市を構成する３つの自治会（今市、坂本、丸原）」が４つとなった。

今市地区の課題

・社会復帰促進エリアの新しい自治会と、もとからの自治会（今市エリア、坂本エリア、丸原エリア）との差（環境、人口、世代など）が激しく、地域活動を通じて育まれる「地域人財」の育ちが乏しい。
・就労、子育て世代の多くが社会復帰促進センター職員家族であり、高齢世代（60 代以上）は、もとからの住民が占めるという世代構成により継がれ培われた技や知恵の継承維持が困難。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

今市まちづくりセンターの新たな取組

事業名
関係機関協働事業

今市の魅力再発見
～イマフル～

「イマフル」県立大学生が命名！
・今市はパワフルに女性が活躍していることや、パワフルに今市のまちづくりを活性化していきたいという思いが込められています。

パワフル　ピースフル　カラフル　ワンダフル　今（イマ）と古（フル）

P

事業の目的（解決を目指す課題）

地域に住居している住民の暮らしへの満足度が高まる地域
希薄化しがちな住民同士の繋がり感を取り戻し地縁が深まる地域
住民の地域に関心を持ち先人から継いだ知恵を後世に繋げる地域
「大学×企業×地域×県×民」協働事業による元気な地域

見込まれる成果

シビックプライドの醸成によるウェルビーイングの高まり
高齢者や子育て中の孤立感への歯止め
地域資源と人財の掘起こし
多様な世代の地域での活動を応援・情報発信
住民、企業等に心地よい刺激と活性化

D

事業の概要

※Ⓟを達成するためのファクターとして①②③を実施

① グループトーク
～地域が抱える問題を大学生と共有～
■県立大学教授、大学生、県職員、四つ葉振興会正副会長会、センター職員

6月～1 月５回／実施総人数 70 人

② フィールドワーク
～地域を探訪し、聞取りから問題点・課題を探る～

７月3日（土）坂本・今市地区

７月６日丸原・南高台地区

■島根県立大学教授、大学生
県職員、四つ葉振興会正副会長会、
地域の企業、センター職員他 40 人

③ 動画撮影・発信
～地域の魅力を YouTube 撮影・発信～
■撮 影 日：10/11（月）、10/18（月）、10/20（水）
■撮影場所：今市まちづくりセンター・地域の企業
■島根県立大学教授、大学生、県職員、旭地域企業、センター職員他総 25 人

撮影の様子

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	○								

上記評価の理由
○現状差が大きく異なる４つの地区を跨いでいることに加え、課題が複合的・重層的であり、一緒に目標に向かう関係人口が少ないと考えられるため

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○課題にトライする県大生のパワーを継続的に取り入れ、将来のありたい姿を起点とした発想を共有する仕組み
○大学生の活動を通して受けた刺激が、住民の我が事と意識を育み、積極的な地域活動への参画を増やす取組

YouTube の検索は↓

企業紹介編

商品紹介編

調理紹介編

大学生による YouTube 動画撮影

木田地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　246 人
(2)世 帯 数　123 世帯
(3)面　　積　11.43 ㎢
(4)高齢化率　51.63%

主な施設

□市役所(支所含む)　□幼・保育園　□小学校
□中学校　□高等学校　□専門学校・大学
□図書館　□病院　□スーパー　□コンビニ
☑ガソリンスタンド　□公園　☑広場・体育館
□その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：木田まち自治会
設立年月日：平成 22 年８月 26 日(平成 30 年 統合及び名称変更)
概要：旧木田自治会・旧木田まちづくり推進委員会がひとつになり、それぞれの機能を活かす組織として設立。地域の伝統行事の他、環境保全にも努め、各団体と連携し住民の生活向上・充実した暮らしの為に持続的なまちづくりを行う。

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

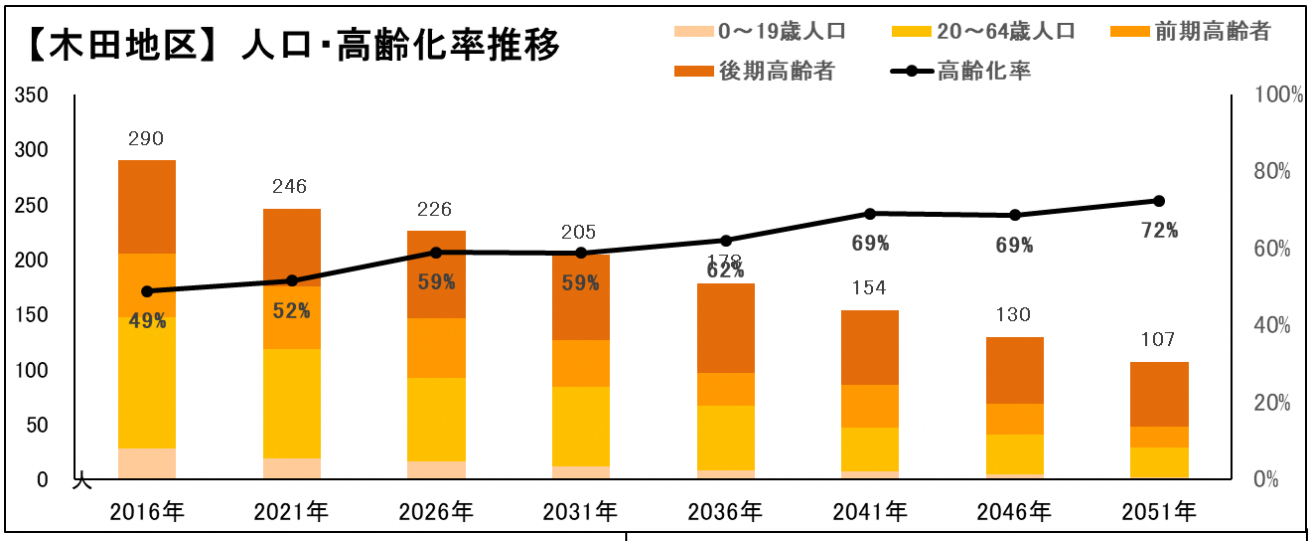
☑事務局機能　□関係団体との連絡及び調整役　□特になし
□その他（　　）

木田地区の強み

- 昔から自治会が中心となり、地域での様々な活動に対して役割分担がされている。
- 奉仕作業などは多くの住民が積極的に参加する。
- 地域愛のある人が多い。
- 住民のまとまりがある。
- 他人と積極的に関わろうとする人が多い。

木田地区の課題

- 継続していく事業の中で深刻な人手不足がおこる。一部の人が負担を抱える事のないように、団体や若い世代と現状や課題を共有する必要がある。
- 住民がやりがいを感じることのできる心も体も健康な地域づくりを行う。
- 地域に対するプライドを育み、伝統の継承を行っていく。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

住民の参画による地域づくり『包丁研ぎ講習』

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

○地域住民の「やりたい」「やって欲しい」の声を聞き、ニーズに合った事業を行う。

○活動に興味とやりがいを感じ、継続できる事業を行う。

○「助け合う」住民同士の新たな繋がりをつくる。

D 事業の概要

開催日：令和３年８月２４日（火）
場　所：木田生活改善センター
参加者：６名
講　師：２名（センター運営推進委員）
内　容：猟師と大工職人による講習会。
砥石の見分け方や研ぎ方の基本を教えてもらう。
包丁を研ぐ人、研いで欲しい人が集まった。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	○								

上記評価の理由

○参加者が、期待していた人数より少なかったため。

○まだ一度しか行っていない事業のため、その成果がどれだけ課題解決に反映されているか検証できないため。
すぐに結果はでないが、今後、様々な取組を行っていくことよって、10 に近づいていくことを期待している。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○しっかり住民の声を聞きながら、住民が興味の持てる事業を行う。また、多くの人が参加しやすい日程を設定する。

○「包丁研ぎ」に限らず、住民の要望を取り入れた事業を行う。講師についても各団体などの協力を仰ぎ、「できる人」を増やす・育てる。併せて、若い世代の助け合う心を育み、30 年以上前から行っているとんど焼きのように住民が主となり継続できる事業を展開する。

和田地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　476 人
(2)世 帯 数　243 世帯
(3)面　　積　21.78 ㎢
(4)高齢化率　54.20%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☐幼・保育園　☐小学校
☐中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☐図書館　☐病院　☑スーパー　☐コンビニ
☑ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☐その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：和田まちづくり推進委員会
設立年月日：平成 22 年４月 25 日
構成団体　：各地区団体(自治会、地区社協、若者会、神楽社中)、行政連絡員 等
主な活動　：毎月定例総務企画部会議、情報発信（広報誌・HP・インスタ)、奉仕作業（年３回)、地域親睦グランドゴルフ大会、和田地区民運動会、敬老事業、健康ウオーキング 等

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

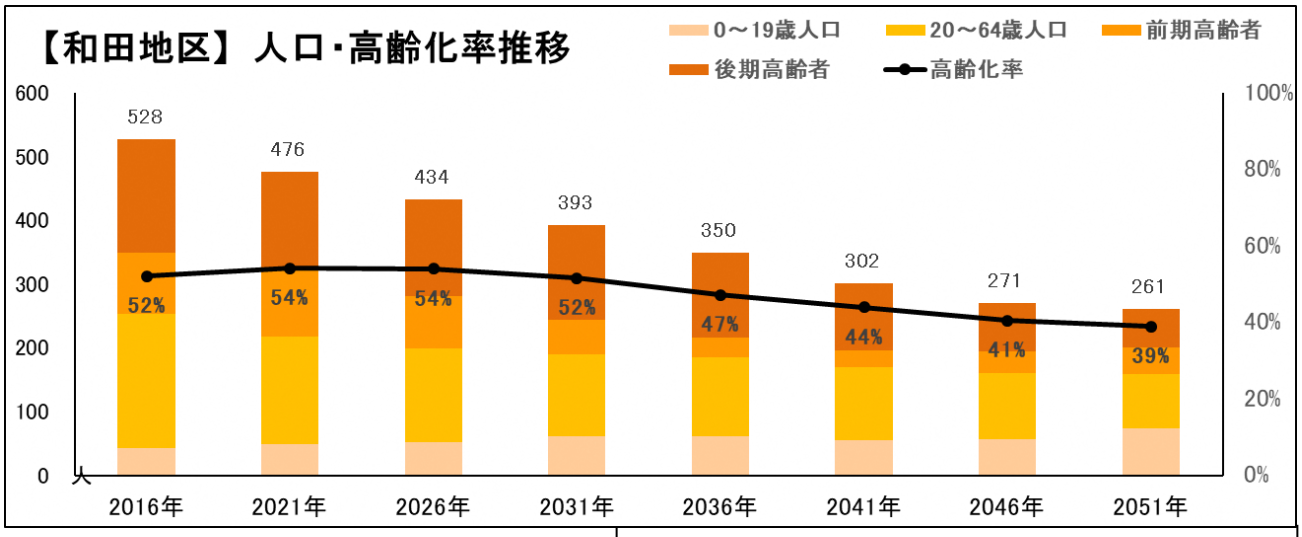
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

和田地区の強み

- 自治会制度が確立しているので、まちづくり推進委員会の活動が地域の協力を得やすい。
- 自治会が ４ つの地域に分かれている為、小規模単位での話し合いや活動がしやすい。
- 行政 OB が地域活動に参画している。

和田地区の課題

- いつも同じ人が役員をしている状況になっている。
- 高齢者の独居生活者が増えている
- 農業や環境保全など後継者不足のため、荒れてくる。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

耕作放棄地対策事業

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

○公民館時代に、県のプラットフォーム事業を活用し、和田地区の有志の地域住民を対象にワークショップを行った。その際、「和田地区で気になっていることは何か」という質問したところ、地域住民から「農地の荒廃が課題である」という意見が多く出たため、耕作放棄地を少なくする事に取り組むこととした。

○地域に増えてきた耕作放棄地を減らすことで、環境保全、環境美化に繋がることが見込まれる。

D 事業の概要

○平成 30 年に地域の課題を考える「和田の未来を考える会（通称和の会）」を設立

○今年度は「和田まちづくり推進委員会」と、地域の課題を共有し、連携しながら耕作放棄地対策に取り組むこととした。

○毎月定例の総務企画部会において、和田地区の農地に関する状況等を把握するためにアンケートを実施することとした。農家・非農家に拘わらず地域住民全体を対象に、所有する農地の現状や農地に関する意識等を尋ねる内容のアンケートを作成し、７月に地区全域に配布した。

○11 月にアンケート結果を地区全域に配布、報告した。（今後は、まちづくり推進委員会とアンケート結果をふまえて活動計画を協議し、協働していきたい。）

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	○								

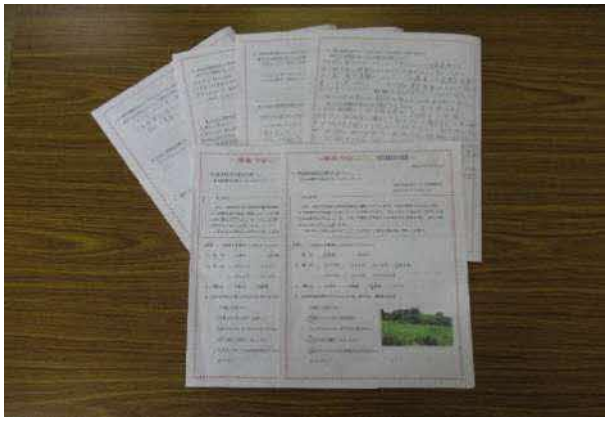
上記評価の理由

○アンケート回収率 30.7%（60/195）と関心度の低さを感じる。

○地域全体で耕作放棄地が増えている状況を認識し、当事者意識を高めていく必要がある。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○アンケート結果を、総務企画部会で協議し、短期・中期・長期計画目標を立てて、すぐ取り組めるものから活動する。



都川地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　218 人
(2)世 帯 数　121 戸
(3)面　　積　36.25 ㎢
(4)高齢化率　71.56%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☐幼・保育園　☐小学校
☐中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☐図書館　☐病院　☐スーパー　☐コンビニ
☑ガソリンスタンド　☐公園　☑広場・体育館
☑その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：都川地区まちづくり推進委員会
設立年月日：平成 23 年５月 30 日
構成団体：自治会、まごころ福祉協議会、その他各種団体
主な活動：交流神楽 in 都川、盆踊り、地区民運動会、敬老会、防災講習会
ふれあいやまびこ祭り

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

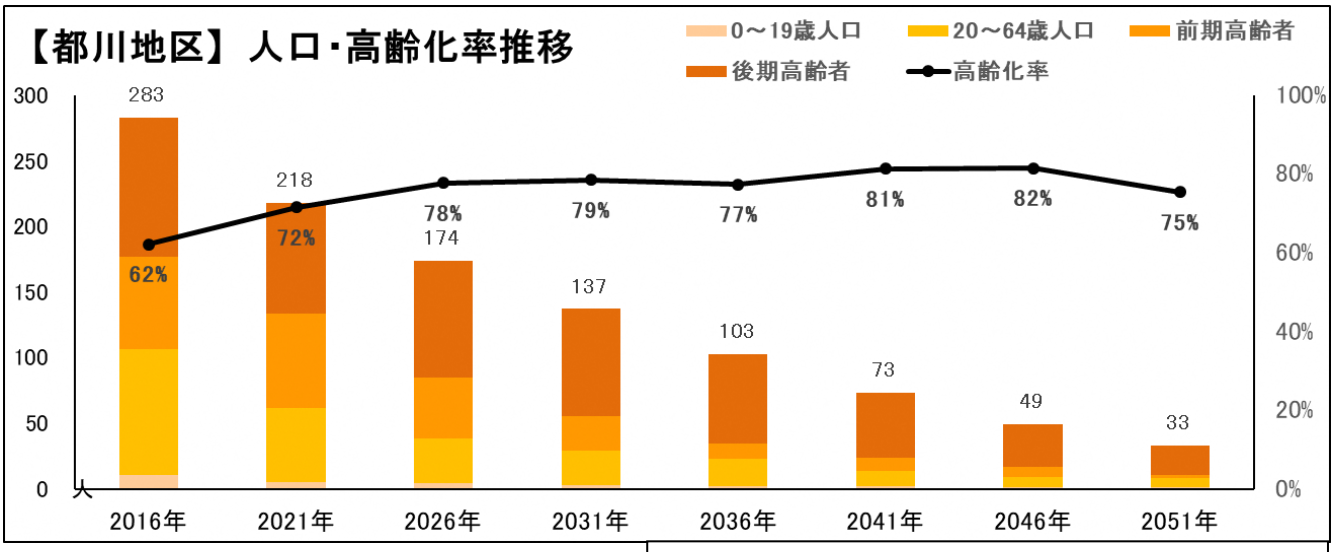
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

都川地区の強み

・高齢化率が高いにもかかわらず、毎年河川清掃（ヨシ刈り）や市道の草刈りに協力していただいている。
・各地区で実施しているサロンへの参加率が高い。

都川地区の課題

・市内で最も高齢化率の高い地区である。
・高齢化が進む中、農業の後継者がおらず、その対策を摸索中。
・店舗の無い地区となり、日常生活に必要な食料などの買い出しや、娯楽を含めた「買い物ツアー」などの充実が不可欠。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

都川まちづくりセンターの新たな取組

事業名

広報誌の紙面拡大と内容の拡充

P　事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

○都川の行事やまちづくり団体活動、センターサークル活動・地区の出来事等の様子を広報誌にたくさん載せることにより、地域に興味を持ってもらい、行事への参加者を増やし、地域の活性化を図る。

○地域への要望や意見を募集し掲載することにより、地域の課題、解決の一助を担う。

D　事業の概要

○A4 用紙から、A3 用紙に変更し、情報掲載量を増やす。

○１か月の行事予定表を掲載し、センターの活動を知ってもらうと共に利用の促進を図る。

○都川の出来事や、行事、お知らせなどを紹介する。

○写真やイラスト掲載を増やし、様子が分かりやすく伝わるようにする。

○「読んでみようかな」と思える記事づくり、見出しにする。

○両面印刷のため、裏の印刷が表に映り、記事が見えにくくなるので、紙の厚さを変える。

C　課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
				○					

上記評価の理由

「広報誌読んだよ！」と、声をかけてもらい、行事予定を見て行ってみようかな、やってみようかなと思う気持ちを持ってもらえ、行事への参加者が増えた。しめ飾り教室は昨年５人から今年度は 10 人に増えた。

A　事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○地域の方の声をより多く聴き、広報誌に反映する。

○活動に参加し、意見を直接聞くことにより、具体的な記事を書く。

○同じような記事にならない様、変化を意識し、読みやすい広報誌にしたり、行事終了後の振り返りの内容を掲載し次の活動に活かしたりする。

市木地区の概要

概要(令和３年 12 月現在)

(1)人　　口　233 人
(2)世 帯 数　126 世帯
(3)面　　積　33.63 ㎢
(4)高齢化率　58.37%

主な施設

□市役所(支所含む)　□幼・保育園　□小学校
□中学校　□高等学校　□専門学校・大学
□図書館　□病院　□スーパー　□コンビニ
☑ガソリンスタンド　□公園　☑広場・体育館
□その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：市木地区まちづくり推進委員会(令和４年４月１日名称変更予定)
設立年月日　平成 23 年３月 26 日
構成団体　市木自治会、地区社協、高齢者クラブ、神楽団、芸能保存会等
主な活動　地域美化作業、ゴミステーション維持管理、防犯灯維持管理
ほたる祭り、川魚を味わう会、敬老会、体育大会、健康ウォーキング

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

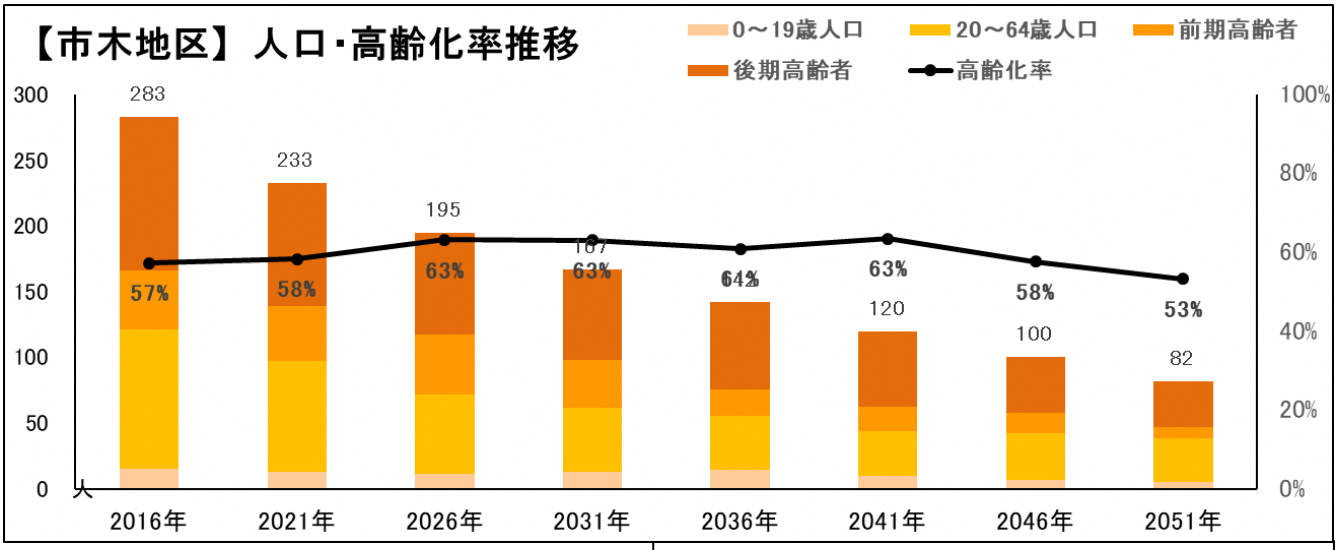
☑事務局機能　□関係団体との連絡及び調整役　□特になし
□その他（　　）

市木地区の強み

・高齢者の交通手段の問題、買い物等不便と感じるものは多々あると思えるが、声としては出てこない。「昔と比べれば」の思いが強く、不便という環境を当たり前として捉えているものと思われる。

市木地区の課題

・集落、地域の維持
極度の高齢化、世帯減により集落維持(地域維持)が困難になりつつある。
協働による維持活動が困難になる中、集落の景観保全、耕作放棄地の管理等解決の難しい課題がある。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

ほたる鑑賞路整備　観光交流事業（ほたる鑑賞）

P　事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

地域の財産である市木川に乱舞する「ほたる」を多くの方に鑑賞していただきたく、まちづくり推進委員会主催で「ほたる祭り」を開催してきたが、新型コロナの影響により 2 年続けて中止となった。今後も多くの人に見学、鑑賞してほしいという思いから、鑑賞路の整備を実施した。これにより地域の魅力発信と、地域資源の再認識、ふるさとへの愛着醸成を図る。

D　事業の概要

○鑑賞路 300m(河川管理道)と鑑賞スポットの除草作業。

○桃太郎旗、誘導灯の設置。

○マスメディアを活用しての PR(山陰中央新報、リビエール、いわみケーブルビジョン、浜田市観光協会、広報はまだ　等)

○実施期間：令和３年６月 10 日から６月 30 日まで　　参加者：推計約 500 名。

※平成８年にほたる増殖研究会が発足し、地域資源であるほたるの人工孵化に取り組んできた。また、生息環境の整備として河川除草を行うなど、地域全体で事業を展開している。

C　課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
						○			

上記評価の理由

○マスメディアを活用することで広く広報できたことに併せ、参加者数が増加し、事業の活性化につながった。

○ほたるの飛翔も多く、天候にも恵まれ、多くの見学者があった。リピーターが多い。

A　事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○ほたるの飛翔、乱舞を見学できる場所を提供できることを「おもてなし」と心得、無理はせず長続き出来るように工夫する。

○長期間、夜間の事業であることから、人員の配置は行わず、マスメディアを最大限活用しての広報。

安城地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　674 人
(2)世 帯 数　371 世帯
(3)面　　積　76.28 ㎢
(4)高齢化率　52.08%

主な施設

☑市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☐中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☐図書館　☐病院　☑スーパー　☐コンビニ
☑ガソリンスタンド　☐公園　☑広場・体育館
☑その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：弥栄のみらい創造会議
設立年月日：令和３年４月 16 日
構成団体：自治会長会、社協弥栄支所、弥栄町体育協会、弥栄福祉会、弥栄女性の会
石央商工会弥栄支所、弥栄野菜生産者協議会　等
主な活動：毎月第３日曜日　朝市実施、防災研修会の開催、各自治会への支援　等

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

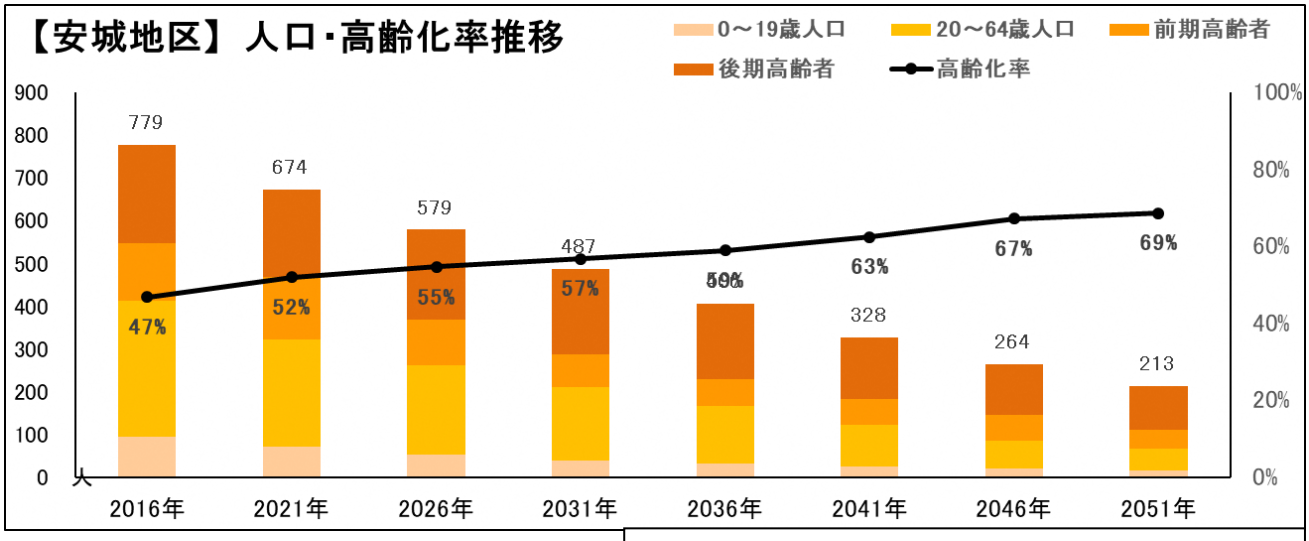
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

安城地区の強み

・昔から安城・杵束それぞれの地区ではまとまりが強かったが、近年弥栄地域としてまとまりつつあり、ふるさと祭り・産業まつり等、盛会に行われている。
・各種事業を実施するにあたって、人口規模が適当であり、防災無線等で周知しやすい。

安城地区の課題

・高齢者宅が中心部の施設から離れている家が多く、移動手段が課題。
・上記課題により、センター事業などに参加したくてもできないという声を多く聞く。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

弥栄のみらい創造会議 長期目標・情報発信計画策定事業（課題解決事業）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

令和３年度に従来 2 組織あったまちづくり委員会を統合して「弥栄のみらい創造会議」を設立した。町内の多くの団体から委員を選出しており、住民の大方の総意を得られる組織となった。今後、年度別の事業を計画するうえで、一貫性と継続性を持たせるための基本指針を示すものである。

D 事業の概要

令和３年８月より、弥栄のみらい創造会議の４部会から８名の委員、事務局、支所、CN 合わせて 14 名程度で、長期計画、情報発信の２課題について毎月１回プロジェクト会議と称して実施している。プロのデザイナーを講師に委託し、他市の計画や小中学生や全住民を対象に実施したアンケートの意見を参考にして、地域交通、交流、防災、環境、教育、福祉、更に産業、体験村再開等様々な課題について構想を練り、年度末に成案をまとめることにしている。専門の講師が指導することで各委員に目指す将来像がまとまりつつある。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							○		

上記評価の理由

会議は順調に進み、目標はまとまりつつあるが、一番の課題はまだまだ多くいる無関心者をどう取り込むかにある。評価はこれからである。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

この事業は今年度で完結するが、令和４年度からは各部会において、目標達成のため順次事業計画を立て実施していく。

まちづくりセンターと弥栄のみらい創造会議は一体のものである。今後、地区社協、JA 等地元の企業と協賛できるような取組を進めていきたい。

杵束地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　513 人
(2)世 帯 数　285 世帯
(3)面　　積　29.48 ㎢
(4)高齢化率　50.49%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☐小学校
☑中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☑図書館　☑病院　☐スーパー　☐コンビニ
☐ガソリンスタンド　☐公園　☑広場・体育館
☑その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：弥栄のみらい創造会議
設立年月日：令和３年４月 16 日
構成団体：自治会長会、社協弥栄支所、弥栄町体育協会、弥栄福祉会、弥栄女性の会
石央商工会弥栄支所、弥栄野菜生産者協議会　等
主な活動：毎月第３日曜日　朝市実施、防災研修会の開催、各自治会への支援　等

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

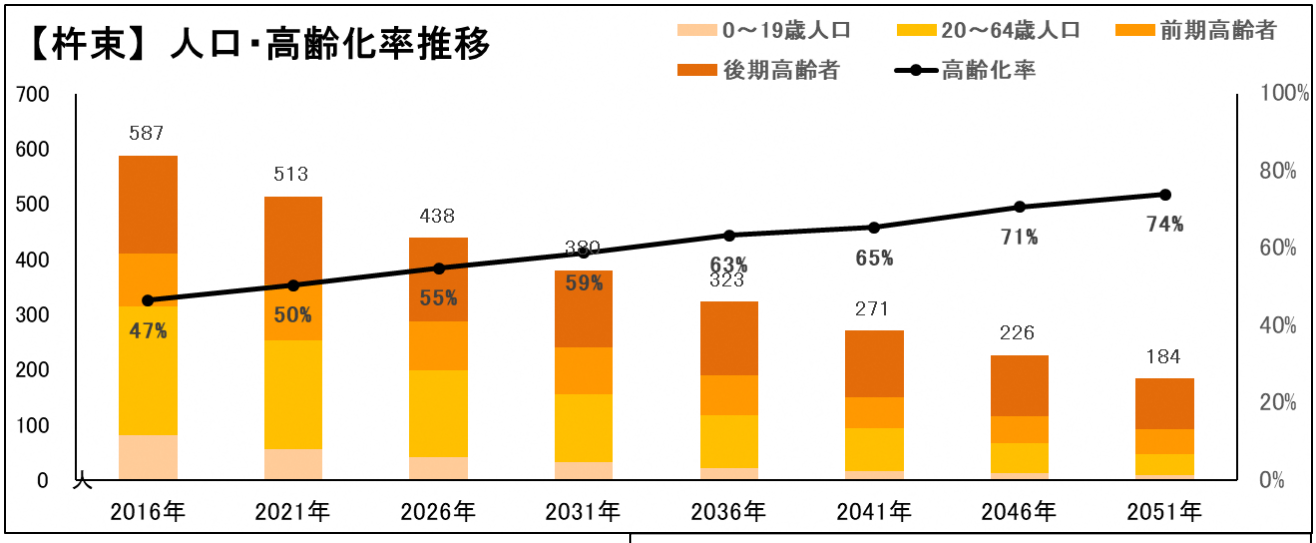
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

杵束地区の強み

- 杵束地区人口の約 9 割をカバーするエリアに主な施設が集約されている。
- 県道浜田美都線が地区の中心を南北に走っており、自家用車及び公共交通機関が利用できる場合は、地区内及び浜田市内との往来が容易。

杵束地区の課題

- 地区の周辺部は、中心部と比較しても、人口減少・高齢化の進行が著しく、交通手段が不足し、地区中心部（診療所、食品店など）や浜田市内等との往来に支障をきたしている。
- 食品店が今後何年先まで維持できるか不透明。
- 集落維持が困難である。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

放課後子ども教室（マジスクール）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

〇事業の目的

杵束地区の子ども達に、地区内に学習スペースや放課後の居場所を設けることで、子ども達が安心して過ごすことができる。

〇見込まれる成果

学習意欲の向上、礼儀を学ぶ、多世代・他学年とのコミュニケーションがとれる、保護者の送迎の負担を軽減する。まちづくりセンター施設周辺に活気をもたらす、地域住民（講師・見守りボランティア）と顔見知りになる。

D 事業の概要

ターゲット：弥栄小学生・弥栄中学生　※現時点では弥栄小学生 12 名の参加

毎週月曜日１５時～１７時（放課後）　場所：杵束まちづくりセンター

講師・見守りボランティアは地域住民や杵束まちづくりセンター職員が担う。

宿題を行い、その後、用意したプリント２枚をする。

終わり次第、自由時間。帰宅する子、遊ぶ子や引き続き勉強する子など様々。

〇工夫した点、成果、課題、改善点等

・机の配置など試行錯誤しながら、子ども達が集中して勉強に取り組める環境を整えた。遊ぶ場が少ない為、喧嘩が起こることも多々。しかし、状況を見ながら高学年は優しく声を掛けることもある。

・参加する子どもの人数に対して、講師・見守りボランティアの人数が足りていないため、増やす必要がある。

・課題・改善点について、講師との話し合いの時間をもった。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
						○			

上記評価の理由

杵束地区の小学生の学習スペースや居場所づくりになっている。中学生も対象であるが、参加が無い。手探り状態で始めたため、運営についてのルールや講師の確保が不十分。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

〇しっかりとしたルール作り。
（決まり事や時間など）

〇夏休みや冬休みの長期休みには学習に楽しい事をプラスする。

〇講師、見守りボランティアを増やす。
（弥栄のみらい創造会議委員に担ってもらうことも要検討。）

〇地域の協力を得ながら、子ども達の見守りを行う。

岡見地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　1,181 人
(2)世 帯 数　603 世帯
(3)面　　積　13.61 ㎢
(4)高齢化率　41.24%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☐中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☐図書館　☑病院　☐スーパー　☐コンビニ
☑ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☑その他（　火力発電所　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：岡見地区まちづくり推進委員会
設立年月日：平成 21 年３月 22 日
構成団体：岡見自治振興会、岡見地域福祉推進協議会、
　　岡見まちづくりセンター運営推進委員会　　等
主な活動：各自治会、各団体への支援、買い物支援事業「わくわくマーケット」実施（毎水曜日）、防犯防災活動　他

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

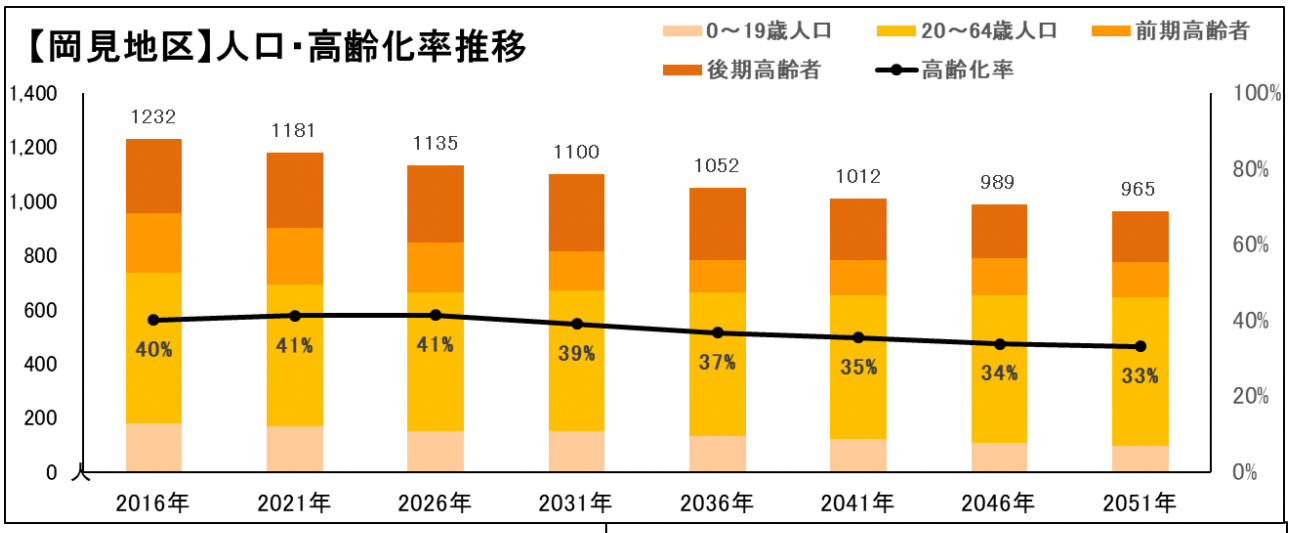
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

岡見地区の強み

・地域と小学校が強いつながりを持ち、ふるさと郷育事業など通じて活気ある地域づくりにつなげられる。
・高齢者が地域活動を積極的に行い、岡見地区をまとめている。

岡見地区の課題

・独居高齢者や高齢者世帯の増加に加え、地区内に商店が無いため、日々の買い物等に困り、将来に不安を持つ人が多い。
・最近はイノシシなどが住宅地まで出没し、田畑や庭が荒らされる他、登下校時などに危険を感じるとの声もある。
・まちづくり役員等の担い手不足。関心がない？仕事？当事者意識が薄い？



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

「おかみかるた」を活用した地域づくり

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

「おかみかるた」を通して、岡見の歴史や言伝えなどを次世代に伝えたり、名所、旧跡を再確認したりすることで、ふるさとへの理解と愛着を深め、誇りを持てるようにする。

また、かるた会などを地域や学校で行うことで、大人とこども、住民同士のコミュニケーションを図り、地域づくりにつなげる。

D 事業の概要

令和２年２月、岡見地域の〈人・物・事〉の素晴らしさや、残しておきたい岡見の風景、伝統、歴史などがたくさん詰まった「おかみかるた」が完成した。平成２８年度に公民館事業（生涯学習セミナー）としてかるた作りを計画。地域住民から読み札を募集し、岡見地区生涯学習地域推進委員と共に５年がかりで製作にあたった。

今年度、センター事業として「かるた大会」を開催予定だったが、コロナ禍で実施できなかった。しかし、学校や地域に配布した物で、授業や自治会活動などで活用してもらっている。そして、冬休み中に児童クラブを対象に初めてかるた会を行い好評だった。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							○		

上記評価の理由

子どもから大人まで、ふるさとの魅力を改めて知る機会につながった。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

地域を巻き込んだ「かるた大会」や、かるたの場所を巡るウォーキングなどを、まちづくり委員会と連携して実施していきたい。

三保地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　1,642 人
(2)世 帯 数　804 世帯
(3)面　　積　6.86 ㎢
(4)高齢化率　43.79%

主な施設

☐市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☑小学校
☑中学校　☐高等学校　☑専門学校・大学
☑図書館　☐病院　☑スーパー　☐コンビニ
☐ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☑その他（和紙会館、美術館、キャンプ場）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：三保地区まちづくり推進委員会
設立年月日：平成 22 年２月 24 日
構成団体：自治会等
主な活動：三保地区海岸一斉清掃、石州和紙灯ろうまつり、各自治会への支援

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

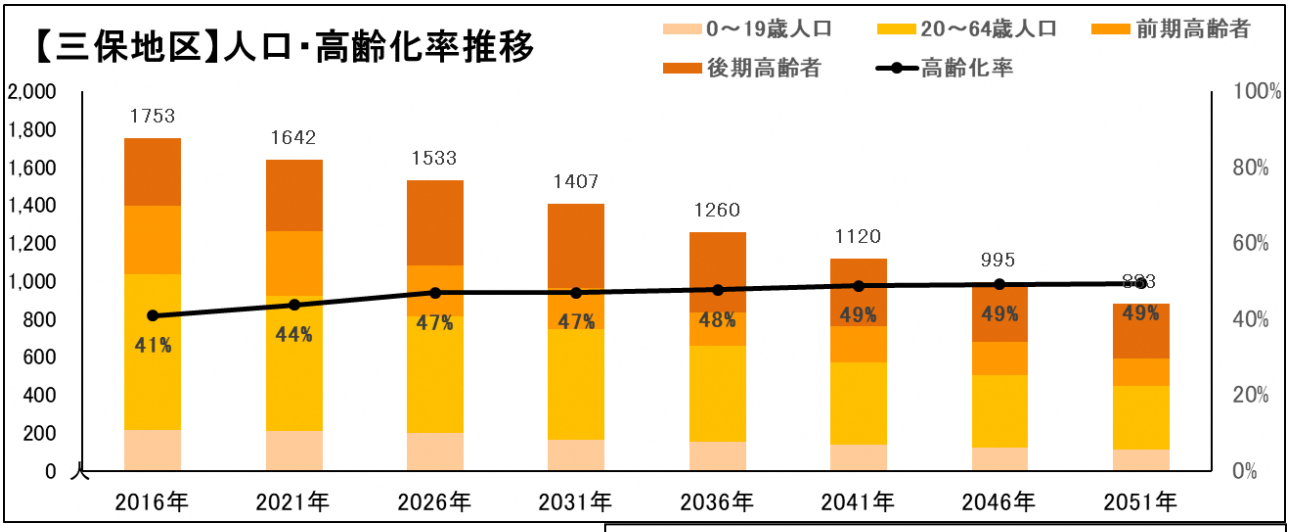
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

三保地区の強み

三保地区は平成 21 年にユネスコ無形文化遺産に登録された石州半紙、平成元年に経済産業大臣指定の「伝統的工芸品」の石州和紙の工房がある唯一の地区である。また、小中専門学校等の教育文化施設もあり、海、山、川の自然も豊かな調和の取れたエリアである。住民の心も豊かで、各種イベントへも積極的な参加をしており、活動中は笑顔が絶えない。

三保地区の課題

他地区同様、少子高齢化に歯止めがかからず、耕作放棄地や空き家も増加している。また、交通網が十分ではない上に、高齢化による足腰の衰えにより買い物や病院への移動にタクシーを利用する場合があり、経済的な負担がかかっている。さらに、独居世帯も増加しているため、住民相互の協力が欠かせなくなっている。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

三保まちづくりセンターの新たな取組

事業名　**三保の豊かな自然で 防災デイキャンプ！ 子どもも大人もつながろう！**

P　事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

以前、三隅地域には子ども会連絡協議会主催のジュニアリーダー研修で小学校高学年はキャンプを通して、自立、協調性、自然への敬意、リーダー性等を学んでいた。協議会が解散したのちは子供会単独事業が難しくなった。そこで、まちづくり委員会等と連携し近年多発している自然の脅威に備えるため防災を意識したデイキャンプを計画。キャンプを通し、三保地区の豊かな自然に愛着を深めるとともに、生きる力の向上につなげ、防災を意識した取組により、子どもも大人も含めた地域住民同士の交流、絆が深まり、有事の時の助け合い、つながりのある持続可能な地域づくりへの機運の醸成を期待する。

D　事業の概要

日時：令和３年７月２２日（木）（祝：海の日）　8:30～16:00　参加人数：７７名
会場：田ノ浦海岸、B&G 海洋センター体育館・研修室、田ノ浦公園オートキャンプ場
共催：三保地区まちづくり推進委員会、浜田市社会福祉協議会三隅支所
協力：浜田市消防本部西部消防署、B&G 海洋センター、浜田市三隅支所防災自治課
内容：午前①カヌー体験、水難事故防止講習（B&G 海洋センター）
②防災グッズ制作（まちづくり CD、委員会）炊出し訓練（社協）火起こし（委員会）
午後③応急処置講習（消防）④ロープワーク（消防）⑤避難所体験（防災自治課）
対象：小学生及び親子を中心とした三保地区住民（委員会スタッフは役割を担いつつ参加者）
☆コロナ過での開催ということで午前の事業①②は選択制にし、午後の③④⑤は参加者を３グループに分けて密にならないようにローテーション制にして全て体験できるようにした。成果として、災害時の動きなどイメージ出来た。しかし保護者世代の参加が少なかったことが今後の課題。

C　課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							○		

上記評価の理由

コロナ禍で感染対策を十分に行い約 80 名の事業が出来た。事業後のアンケートから災害時自分が何をしたらいいか、何ができるか考えることができた。今後もこの事業を継続する必要がある。子どもだけでなく大人もいい体験ができた。次回も参加したいとの意見が多かった。ケガや熱中症等の体調不良者が無く終了した。

A　事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

中・高生、大学生等、保護者世代の参加を促す必要がある。多世代の交流が必要。多様な家族構成から親子参加を前提にすることは難しいので親世代、また、若者世代に計画段階から参画できる仕組みづくりが必要である。

白砂地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　263 人
(2)世 帯 数　118 世帯
(3)面　　積　9.30 ㎢
(4)高齢化率　40.68%

主な施設

□市役所(支所含む)　□幼・保育園　□小学校
□中学校　□高等学校　□専門学校・大学
□図書館　□病院　□スーパー　□コンビニ
□ガソリンスタンド　□公園　□広場・体育館
☑その他（　道の駅ゆうひパーク三隅　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：白砂まちづくり委員会
設立年月日：平成 22 年４月４日
構成団体：地区内 4 集落、地区人権同和推進委員会、地域福祉推進協議会、交通安全白砂分会、保健委員会、しらすなっ子倶楽部、消防団白砂分団等
主な活動：体育祭、敬老会、人づくり、元気な地域づくり、口腔ケア、各集落支援等

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

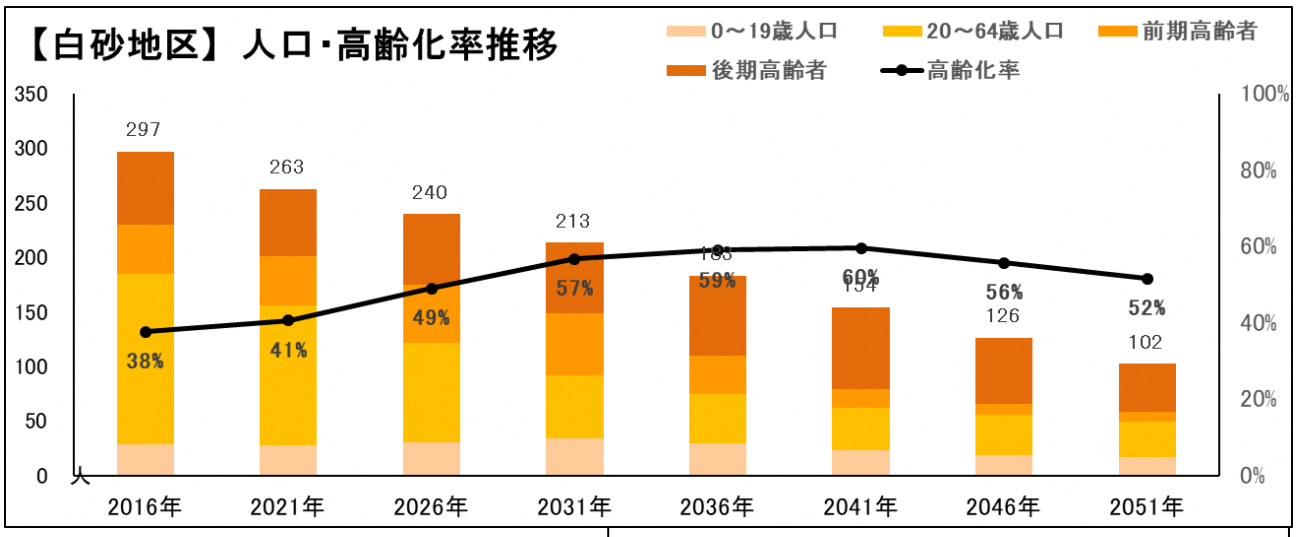
☑事務局機能　□関係団体との連絡及び調整役　□特になし
□その他（　　）

白砂地区の強み

- 特産品西条柿を通した事業展開
  特産品を活用したふるさと郷育推進事業を展開することにより、地域の子どもに地域産品の魅力を伝えることができる。
- スピード感のある事業展開
  自治会が無く 4 集落と地区内の各種団体でまちづくり委員会を構成し、スピーディーでまとまりのある事業が展開できる

白砂地区の課題

- 有害鳥獣対策
  地域内には、イノシシ、熊、ヌートリア、サル等の有害鳥獣が多発する。狩猟免許取得者はわずか２名で対応できていない。
  特産品の西条柿は保護のためワイヤーメッシュで保護するものの根本的な鳥獣対策が必要。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

地域の子どもが地域を知る・学ぶ事業

2021 年度「キラキラ☆白砂の海」

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

〇事業の目的

地域の子どもたちが地域の大人と一緒に学ぶことで、自分たちの地域を知り、誇りを持つことができる。大人も、地域の子どもを知ることができる。

〇見込まれる成果

・郷土愛を持つ子どもに育つ。

・地域との繋がりを持つことで連帯感が生まれる。

D 事業の概要

実施日時：7/31（土） 対象：白砂地域子供会　白砂っこ倶楽部　親子　２３人

白砂地域の海「吉浦海岸」での事業。海岸清掃、海ヨガ、生き物探し、海遊びを行った。

海岸清掃では、砂浜に打ち上がったペットボトルやマイクロチップなどの海洋ゴミを拾い、ゴミ袋 3 袋分にもなった。子どもたちが現状を知ることにより、環境問題について考える機会となった。

海に入る前の準備体操として海ヨガを行った。二人一組で行い、親子や兄弟、友達と触れ合いながら楽しんで行うことができた。

生き物探しでは、しまね海洋館アクアスの職員 3 名と海に潜って、カワハギやタコ、ヒトデ、ウニなどを見つけた。箱眼鏡や網を使って捕まえることができた。実際に生き物を捕まえたり、説明を聞いたりすることはなかなかできないので、子どもも保護者もいい勉強の機会となった。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
						〇			

上記評価の理由

白砂地域は人口も少なく、子育てが終わると、地域の子ども達と接する機会が少なくなる。事業の中で交流することで、顔見知りが増え、子ども達が「親だけでなく、地域の大人たちに見守られて育つ安心感」を感じてくれるよう期待し、今後も継続していきたい。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

ふるさと郷育推進事業として行ったが、まちづくり委員会にも共催をお願いし、会長、教育振興部会長の協力を経て実施することができた。

今後は保護者や役員だけでなく、地域の様々な方と交流を持てるよう、広く声がけをして参加を呼び掛けたい。

三隅地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　1,775 人
(2)世 帯 数　850 世帯
(3)面　　積　19.86 ㎢
(4)高齢化率　38.14%

主な施設

☑市役所(支所含む)　☑幼・保育園　☐小学校
☐中学校　☐高等学校　☐専門学校・大学
☐図書館　☑病院　☑スーパー　☑コンビニ
☑ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☐その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：三隅地区まちづくり推進協議会
設立年月日：平成２２年３月 29 日
構成団体：自治会、集落、消防団、地区福推協、生涯学習、地域協議会、食改子供会、民生児童委員、高齢者クラブ、地域担当職員、その他有志
主な活動：部門別に５つの部会にわかれて事業を企画、開催している。ふれあいスポーツ交流会、つつじの郷事業、課題解決事業など全体で行っているものもある。

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

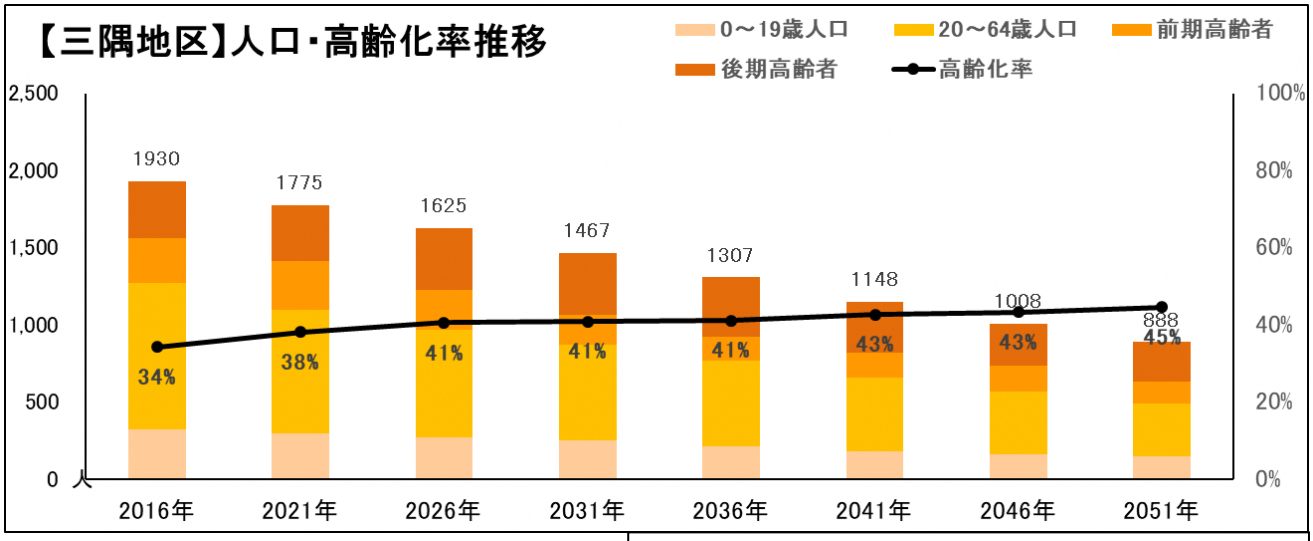
☑事務局機能　☐関係団体との連絡及び調整役　☐特になし
☐その他（　　）

三隅地区の強み

・病院、スーパーなど生活に必要な施設が存在する。交通環境もある。
・自治会が機能しているので各自治会で自主防災組織も設立しており、敬老会など集落行事も行われている。

三隅地区の課題

・人材不足や次世代交代が上手くいかない状況から、自治会の役員決めや集落行事の開催が難しいと相談に来られることが増えた。高齢者クラブなど団体も減る傾向にある。また、まちづくり事業の参加者も固定化している。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

三隅まちづくりセンターの新たな取組

事業名

マナビィみすみ

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

三隅地区まちづくり推進計画の中の「夢を持ち三隅を愛する人を育むまちづくりの実現」を推進するため、三隅地区まちづくり推進協議会が主体となって事業を行う。

地域との関わりを通して三隅中学校生徒が郷土愛（ふるさと愛）と向上心（集中力、持続力、主体性、探究心、情熱）を身につける。また、家庭学習支援を行うことで学力アップを図る。

D

事業の概要

開催日：11/18・22、12/22
1/14・20・28
2/1・8・16・17・22・25
1/14～2/25
新型コロナウイルス感染拡大のため、中止
3/1（感染状況をみながら、実施の可否を判断）

時　間：16：00～17：30 又は 16：20～18：50

場　所：三隅中学校・三隅図書館

講　師：リハビリテーションカレッジ島根の学生（以下「リハカレ生」とする。）

対　象：三隅中学校生徒

内　容：リハカレ生を講師に三隅中学校生徒の家庭学習を支援する。

成　果：アンケートの感想から中学生もリハカレ生も人との関わりと学習に向き合えた時間になっていた。

課　題：事業の良さを保護者に知ってもらう。回数を増やす。参加者を増やす。

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							○		

上記評価の理由

アンケート調査を講師と参加生徒に行った。結果は全般的に好評だったが、中には、回数を増やして欲しいことやもっと周知をして欲しいとの意見があった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○広報の仕方を工夫する

○参加しやすい環境をつくる

（送迎や予算の確保、開催場所）

黒沢地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　240 人
(2)世 帯 数　120 世帯
(3)面　　積　40.23 ㎢
(4)高齢化率　57.5%

主な施設

□市役所(支所含む)　□幼・保育園　□小学校
□中学校　□高等学校　□専門学校・大学
□図書館　□病院　□スーパー　□コンビニ
□ガソリンスタンド　□公園　□広場・体育館
☑その他（　コワ温泉　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：黒沢まちづくり委員会
設立年月日：平成 21 年２月 15 日
構成団体：自治会、消防団、体育協会、PTA、民生児童委員、地元企業、保健委員　等
主な活動：黒沢地域の機能を「総務企画」、「安全安心」、「健康福祉」、「産業振興」、「生涯学習」の５部会に分け、それぞれ活動をしている。役員会（会長および副会長，５部会の正副部会長，事務局）が，まちづくり運営の総括決定を行うほか，令和３年４月，公民館から行政移管した黒沢まちづくりセンターの社会教育の役割について運営審議を兼務し，社会教育とまちづくりの協働を推進する。

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

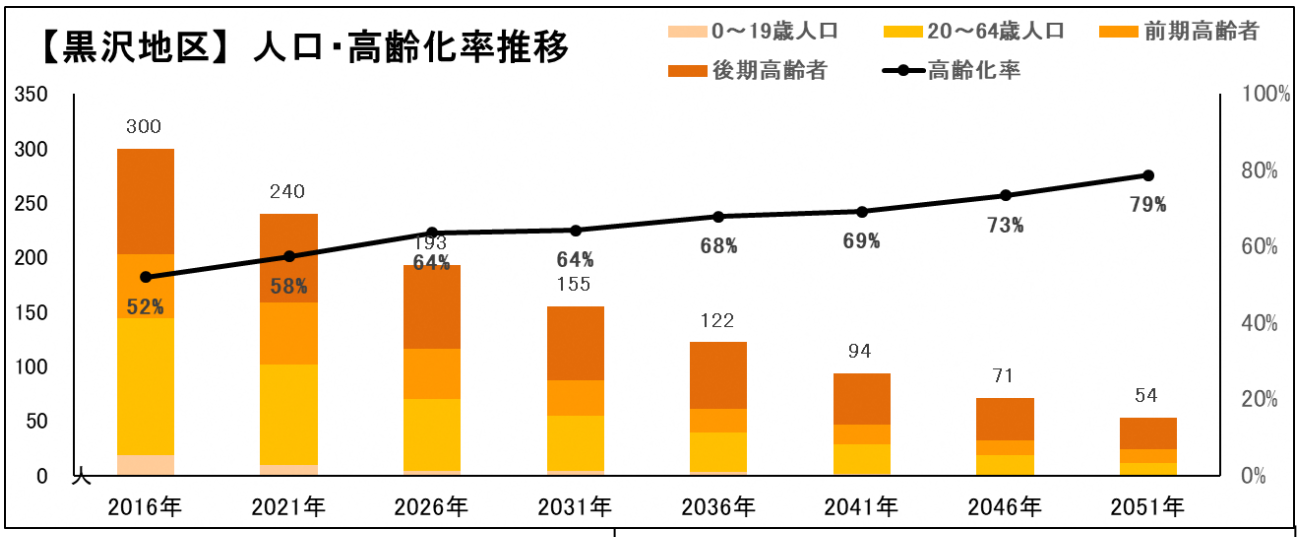
☑事務局機能　□関係団体との連絡及び調整役　□特になし
□その他（　　）

黒沢地区の強み

・地縁のつながりが現存し，協力的であること。古くからの行事等を重んじ，大切にしていること。
・中山間地域の強みを生かした事業を展開し、関係人口・交流人口の創出に努めている。
・食事作りが上手な人が多い。

黒沢地区の課題

・高齢化が進む中で既存の事業内容ができなくなっていて，内容の見直しが課題。
・子育て世代が少ないため，成人の事業に招待する事業内容が多い。家庭教育支援や地域に愛着を持つ事業を展開していくことが課題。
・配食サービス継続には作り手と配食担当の確保と後継者育成が課題。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

つながる関係人口づくり事業

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

〇事業の目的

黒沢地域の人たち。そして市外に暮らしながらここに思いを寄せたり関心を持ったりする人たちが一緒になって黒沢地区で生きること、黒沢地区に関わることを楽しく元気にしていくためにそれぞれのかかわり方を考えること。

〇見込まれる成果

旧黒沢中学校・旧三隅南小学校拡大同窓会で得た、出身者のふる里への深い思いを更なるステップへとつなぎ、SNS による関係人口づくり・交流人口づくりの波及が地域に活力を促すこと。

D 事業の概要

① オンラインで全国にいる出身者や興味を持つ人との交流を図る。
会場には黒沢で活躍している人、出身者、応援団が集まり、全国にいる出身者や黒沢地域に興味を持つ人たちがオンラインで会話を行う。

② 『黒沢 BOX』ピックアップと発送
オンラインの前に出身者の方に地元の野菜や直産物を盛り込んだ『黒沢 BOX』を送り、ふる里の魅力を広めるキーマンになってもらう。

③ 黒沢地域の『生発信！』
黒沢のひと・もの・ことをプチロケ風にインタビューしながらオンラインで地域を紹介。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
				○					

上記評価の理由

① 令和３年度内閣府「関係人口創出モデル事業」の採択事業への協力だったため、センターおよびまちづくり委員会の純粋な企画運営力は半分とみなしている。

② だが、『黒沢 BOX』は、黒沢の地域住民の力で企画実施し、次への関係交流人口づくりにつながる反響を得るという成果を感じた。

③ 黒沢地域全般に本事業の事前広報ができていれば、もっと協力が得られていた。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

① 出身者や地域外の人は、故郷を懐かしく思い守ってほしい気持ちを話されるが、今この地で生活している地域住民の苦悩は大きい。双方の貴重な意見を理解しあうオンライン交流会を継続すること。

② 『黒沢 BOX』をまちづくり委員会の産業振興部会につなぎ、生産者・地域住民の協力体制を作る。

③ 高齢者の知恵や若者の考え方も視野に入れながら交流を増やし、『黒沢 BOX』の中身をさらに濃くしていく。

井野地区の概要

概要(令和３年４月現在)

(1)人　　口　636 人
(2)世 帯 数　332 世帯
(3)面　　積　38.53 ㎢
(4)高齢化率　59.91％

主な施設

□市役所(支所含む)　□幼・保育園　□小学校
□中学校　□高等学校　□専門学校・大学
□図書館　□病院　□スーパー　□コンビニ
□ガソリンスタンド　☑公園　☑広場・体育館
☑その他（　　）

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名　　称：まちづくり推進員会 INO
設立年月日：平成２１年４月 28 日
構成団体：各自治会，井野地区福祉推進協議会，各活動団体（任意団体），
井野地区高齢者クラブ，各集落協定，営農組合，伝統芸能団体(２団体)，
民生児童委員，消防団井野分団　等

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

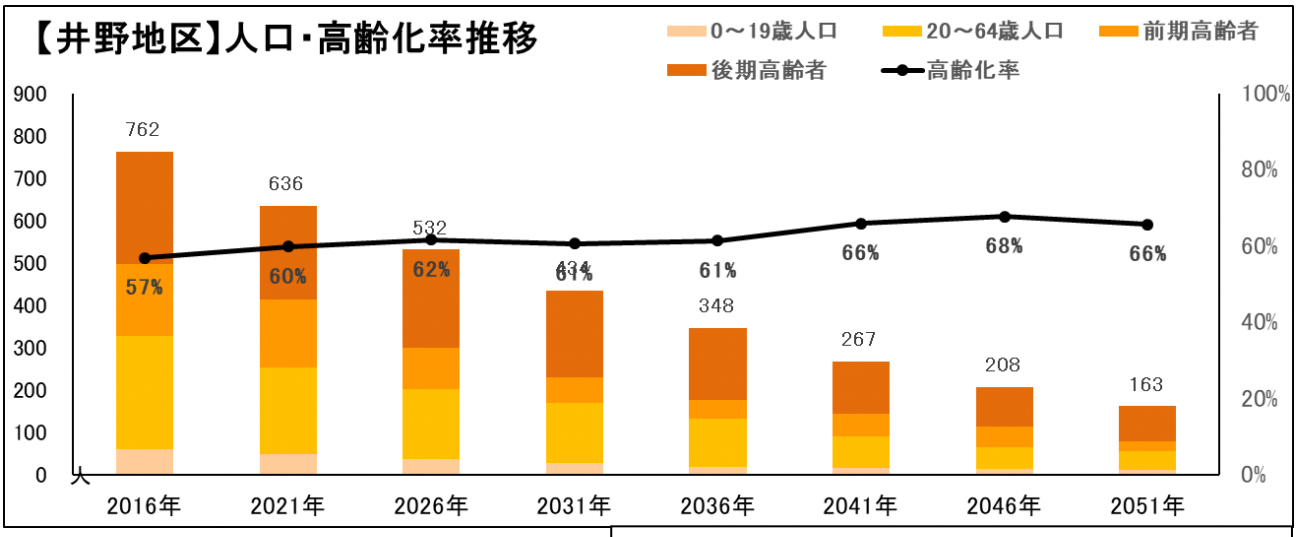
☑事務局機能　□関係団体との連絡及び調整役　□特になし
□その他（　　）

井野地区の強み

- 地域住民同士の結びつきが強い。
  (団結力，連携，協働事業がやり易い)
- 地域活性化への熱量が多い。
  (地域課題を解決しようとする意識の高さ)
- 人が温かい。

井野地区の課題

- 人口減少および少子高齢化。
- 若者の地域事業への参画不足。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

井野地区生活支援事業「いのまる広場」

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

〇事業の目的

小売店が限られる地区に移動販売車が出向き、安定した食の提供機会を確保すると共に、地区住民の交流の場や見守り体制を整備することで地域ケアシステムの構築を図る。

〇見込まれる成果

身近な場所で買い物を楽しむことができ、食の提供機会を安定的に設けることで高齢者の低栄養リスクを防ぎ、バランスの取れた食生活につなげることが出来る。また、交流の場を持つことで生きがいを感じたり孤立を防いだりすることができ、見守りや安否確認を容易に行うことができる。

D 事業の概要

①プレ事業を 4/27(火)に開催。その後、浜田市社会福祉協議会，まちづくりコーディネーター、クローバー(移動販売車)との協議により、毎月第一火曜日(年始を除く)に「いのまるマーケット」(令和３年１１月より「いのまる広場」に改名)を開催する運びとなった。

②クローバー(移動販売車)の都合により、１２月の開催をもって移動販売車は休止。地元商店の協力を得て、現在買い物支援を行っている。

③サロン要素や生涯学習教室の発表の場を設けるなど、工夫しながら継続している。

C 課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		○							

上記評価の理由

新規事業のため試行錯誤しながら運営したが、地域住民への周知不足による参加者不足および固定化が早くも課題となっている。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

①目的に向けての連携・協働団体との綿密な協議

②地域住民への周知方法の検討

③運営ボランティアの人材育成

④井野っ地号の利用促進(買い物支援のための無料送迎等の検討)

看護師資格者による血圧チェックおよび健康相談

地元商店出店による買い物支援

回想法によるサロン活動